

2022年度決算説明会

2023年5月29日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

<お問い合わせ先>

取締役常務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

目次

1 | トピックス

2 | 2022年度 決算概要

3 | 2023年度 業績予想

4 | 事業別 業績概要

5 | 付属資料

トピックス

社長ごあいさつ

取締役社長 高橋 英雄

「Vision 2030」達成に向けて

存在意義(Purpose) =
化学技術でより良い生活環境
の実現に貢献し続ける。



Vision 2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

- ・売上高2,000億円超
- ・営業利益率15%以上
- ・ROE10%以上
- ・安定的な株主還元^{の継続}

四日市工場再構築

無機事業構造改革

新規事業の創出

経営推進力

「Vision 2030 Stage I」の骨子

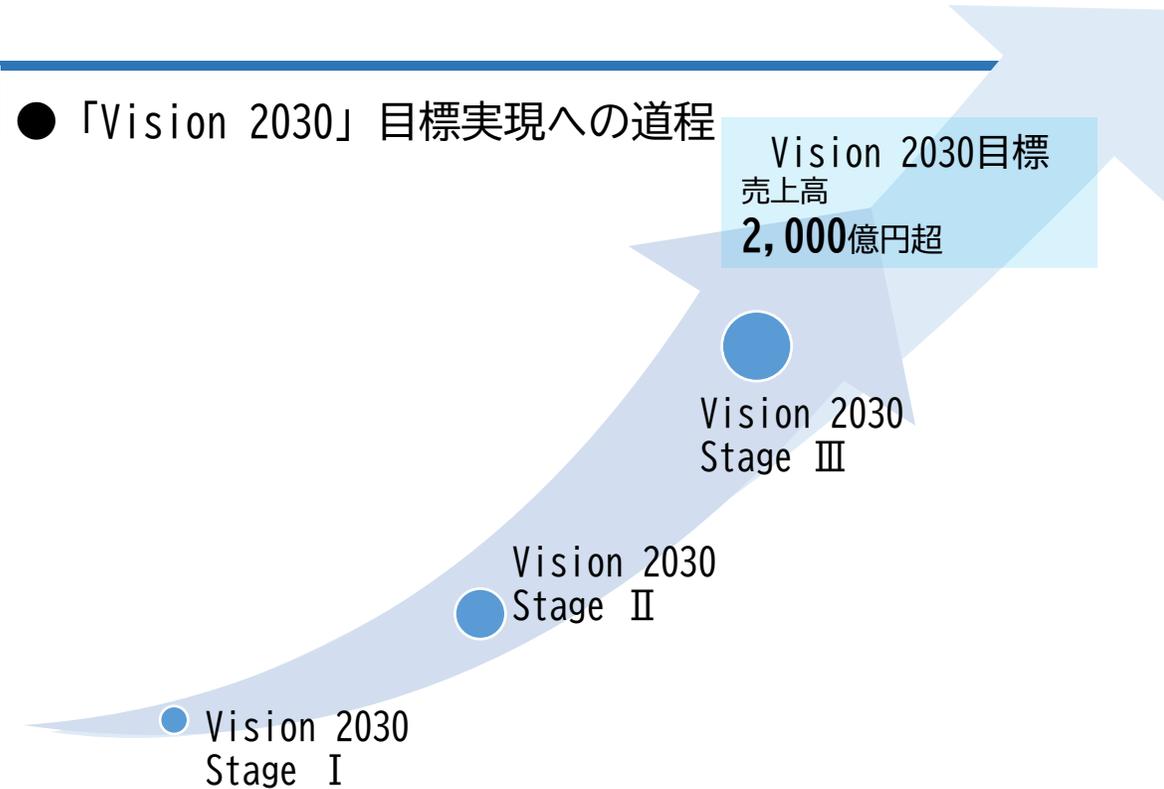
中計「Vision 2030 Stage I」の基本方針

ESG・SDGs視点での経営の取り組みを強化することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す。

FY2023経営目標（中計数値）

■ 連結売上高	1,470億円超（1,250億円超）
■ 連結営業利益率	7%以上（13%以上）
■ ROE	7%以上（10%以上）
■ 株主還元方針	2022年11月10日に変更 (P.12参照)

● 「Vision 2030」目標実現への道程



戦略の方向性

経営全般：■ ESG・SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組み強化

無機化学事業

■ 新たな価値創造で環境と情報化社会の進展に貢献

有機化学事業

■ 世界の人々の食、健康、生命への貢献

研究開発

■ 技術革新への挑戦

「Vision 2030 Stage I」の全体像

各事業の重点施策

無機化学事業

- 高機能・高付加価値品の販売比率向上
- 電子部品材料と導電性材料の拡販戦略の実行
- 更なる成長ドライバとなる新製品の開発加速
- 主原料鉱石の有利調達の実現
- 廃棄物低減や製造および業務プロセス改善による四日市工場のコスト削減の推進
- 製造拠点の最適化に向けたマスタープランの始動
- 温暖化ガス削減に向けたロードマップ作成

有機化学事業

- 主力農薬原体の世界一低コスト製造と安定供給により当社世界市場占有率の拡大
- 次期主力農薬の製造コスト低減と需要拡大
- バイオラショナル分野の開発・商品化とIPM深化
- 農薬の販社複数起用など戦略的・革新的な営業施策の実行
- 世界各国での農薬登録の取得・維持
- 化学合成技術の錬磨と伝承の基盤強化
- 動物用医薬品のグローバル展開

両事業共通

- トップライン（売上）の拡大
- 新事業/新製品創出力の強化
- 「Vision 2030」に向けた社内の構造・意識改革

資本政策

- 株主還元の強化（安定的な株主還元の継続）
- 資本コスト経営の徹底
～キャッシュ・コンバージョン・サイクル全体の改善など～

経営全般

SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組みの推進・強化

- ESG・SDGs視点での経営を通じた事業機会の拡大
- マテリアリティ（SDGs）の特定、マテリアリティに関連する取り組みの強化
- DXの推進、業務効率化による働き方改革
- コンプライアンス経営の継続・強化
- リスクマネジメントの強化

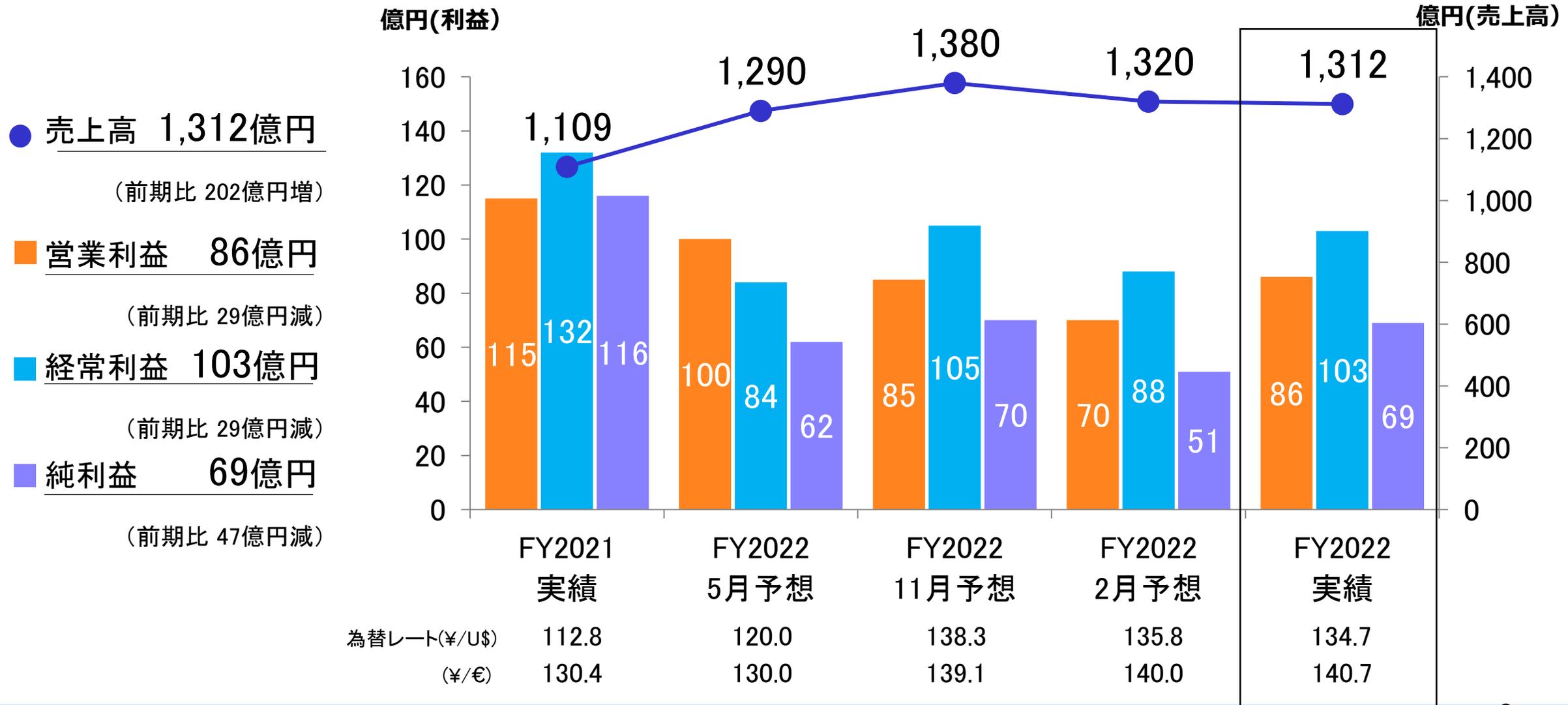
サステナブルな経営への取り組み

- 気候変動対策
 - ロードマップに沿ったCO₂排出量削減施策の着実な実行
 - 無機化学事業に続き、農薬事業についてTCFDの開示準備
- マテリアリティ(重要課題)に関する取り組み
 - 2022年度の進捗状況の取り纏めと新たな目標の策定
- 人権デューデリジェンスへの取り組み
 - 特定した「人権対策優先リスク」について対策遂行
- 人的資本経営の推進
 - 人材をISKグループ全体の大切な資本と捉えていく
 - 「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」認定
- DXへの取り組み
 - AI活用や自動化を進め、業務の見直し・効率化を進めていく

2022年度決算のトピックス

- **無機化学事業**は、酸化チタンの自動車向け販売が低調であった他、海外向け販売がアジアでの市況軟化の影響を受けた。機能性材料では電子部品用材料が期前半は堅調に推移したものの、期末にかけて需要が落ち込んだ。価格改定の浸透や為替円安により**増収**となったが、需要の低迷による販売数量の減少や、原燃料価格高騰で価格改定を遥かに上回るコスト増となり**減益**。
- **有機化学事業**の主力農薬は、米州の殺菌剤や除草剤などを中心に海外向け販売が増加して**増収**。ブラジルでは殺菌剤が好調、北米向けの除草剤も拡大。欧州やアジアでも殺菌剤が好調に推移。これらの増収効果が、原燃料価格の高騰によるコスト増や一般管理費の増加を吸収し、**増益**。

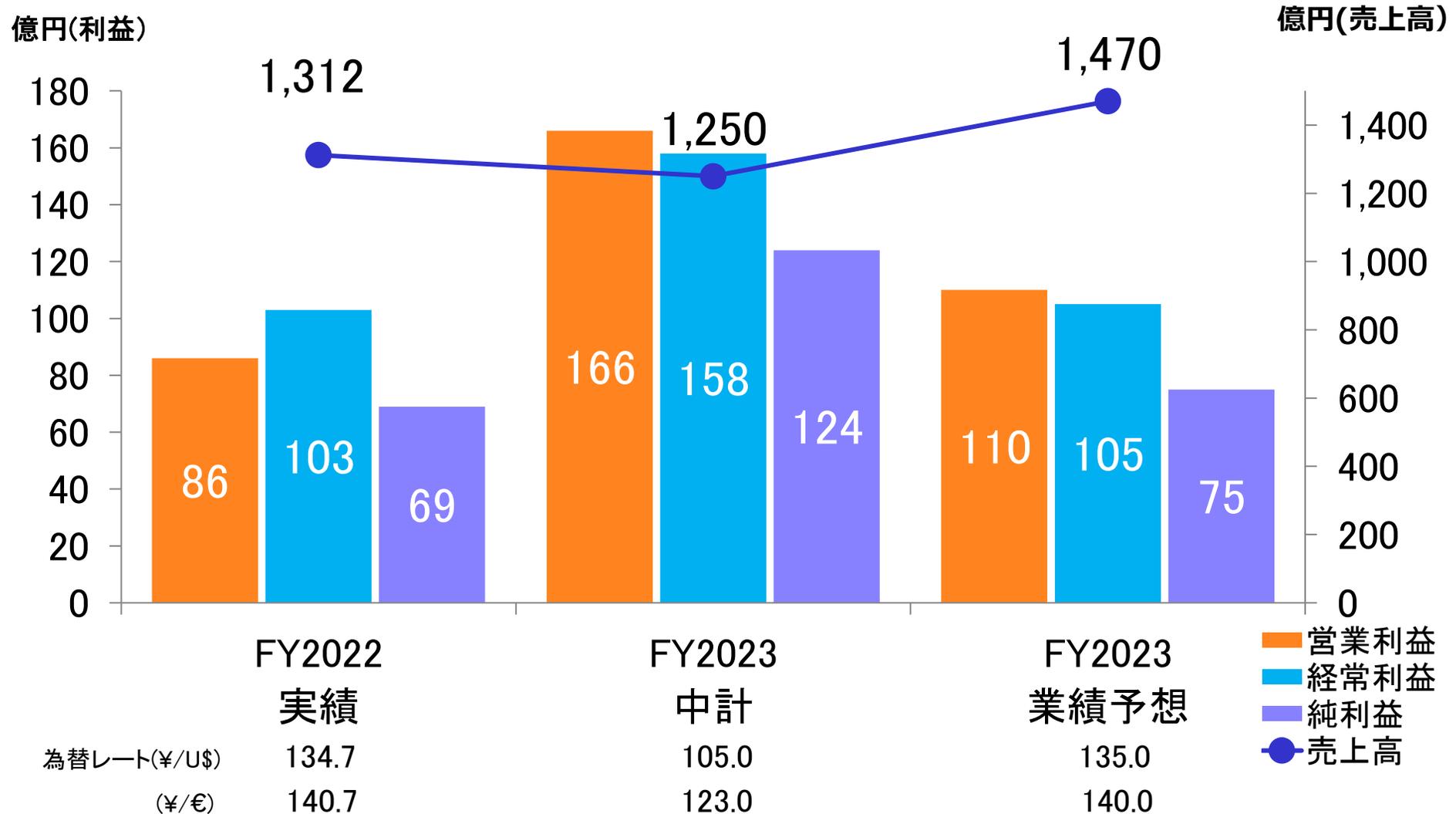
2022年度決算 連結業績



2023年度業績予想のトピックス

- **無機化学事業**では、燃料価格が下落傾向にある一方で、ウクライナ問題による影響が長引き、酸化チタンの原料鉍石が高価格帯で推移することが予想され、引き続き利益が圧迫される見通し。販売面では海外市況が未だに不透明ではあるが、高機能・高付加価値品の拡販を推し進め、収益の向上に努める。
- **有機化学事業**の主力農薬は、ブラジルで一部在庫調整が見込まれるものの、引き続き海外販売を中心に堅調な販売が見込まれる。一方、原料価格高止まりの影響により、製造コスト高が継続する見通し。本年度は、米州を中心に次期主力剤の拡販を一層推し進めるとともに、インド製造委託先での新プラントの本格稼働などでコスト削減対策を進める。

2023年度 通期連結業績予想



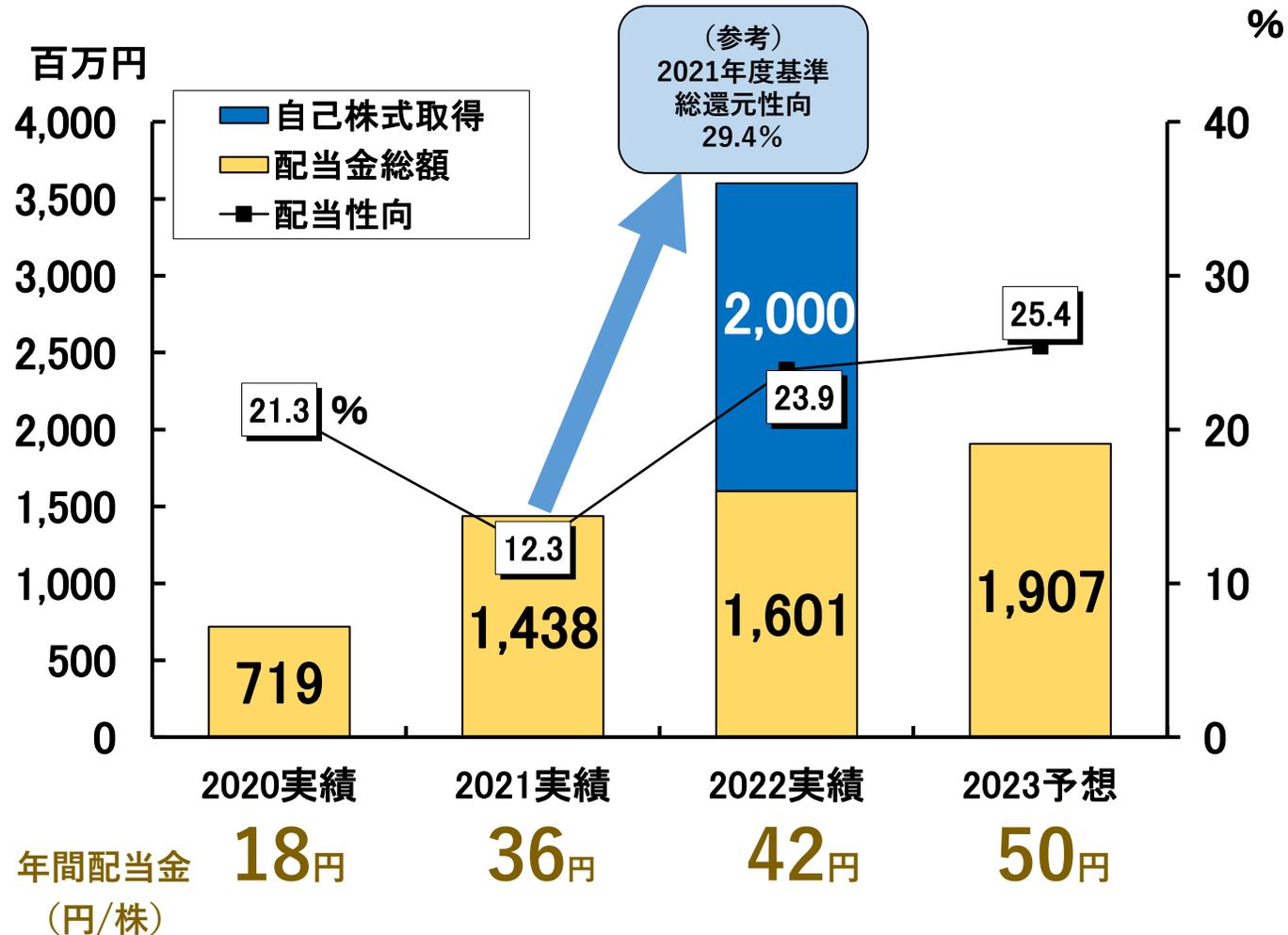
株主還元

■ 株主還元方針

当社は、企業価値を高めるとともに、株主の皆様へ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付けております。配当につきましては、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案して業績に応じた安定的な配当の継続を基本に考えております。併せて、機動的に自己株式取得も行い総還元性向も意識した株主還元を行ってまいります。

中期経営計画「Vision 2030 Stage I」では、最終年度(2023年度)に向けて連結配当性向30%を目標とします。

- 上記方針に基づき、2023年3月期の期末配当予想については、直近の配当予想から2円増配(前期比6円増配)し、1株当たり42円に修正する。
- 2024年3月期の期末配当予想については、1株当たり50円とする。
- 収益力向上や安定的な配当の継続と機動的な自己株式取得などの従来の政策に加え、今後は資本コストや資本収益性などを意識した経営方針を策定し、PBRの向上を目指していく。



2022年度 決算概要

為替レート	2021年度 実績	2022年度 実績
米ドル (円/U\$)	112.8	134.7
ユーロ (円/Eur)	130.4	140.7

2022年度 決算概要

- 価格改定の浸透及び為替相場が円安に推移したことにより、増収となったものの、原燃料価格の高騰によるコスト増で、減益
- 直近の配当予想40円/株を42円/株に増配する議案を定時株主総会へ付議

(単位;億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	増減	2022年度予想 (2023年2月)	差異
売上高	1,109	1,312	202	1,320	△ 7
営業利益	115	86	△ 29	70	16
経常利益	132	103	△ 29	88	15
純利益	116	69	△ 47	51	18
配当(円/株)	36	42	6	40	2

2022年度 事業別売上高・営業利益

<無機化学事業>

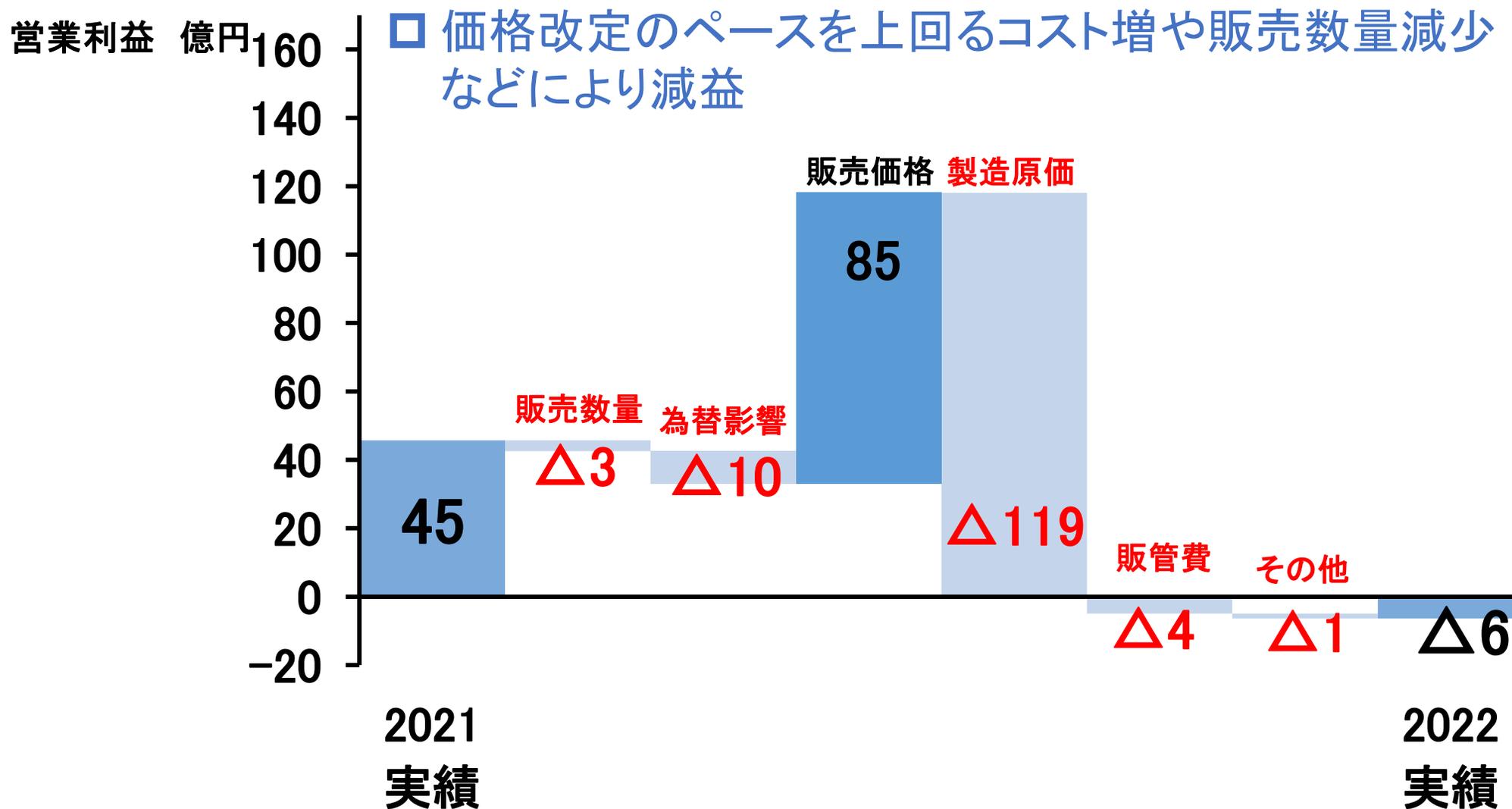
- 酸化チタンは、自動車向け販売が低調であった他、海外向け販売がアジアでの市況軟化の影響を受けた。国内外で価格改定に取り組んだものの、原燃料価格高騰を吸収できずに大幅な減益。
- 機能性材料は、電子部品用材料の販売が期前半は堅調に推移したものの、期末にかけて需要が落ち込んだ。

<有機化学事業>

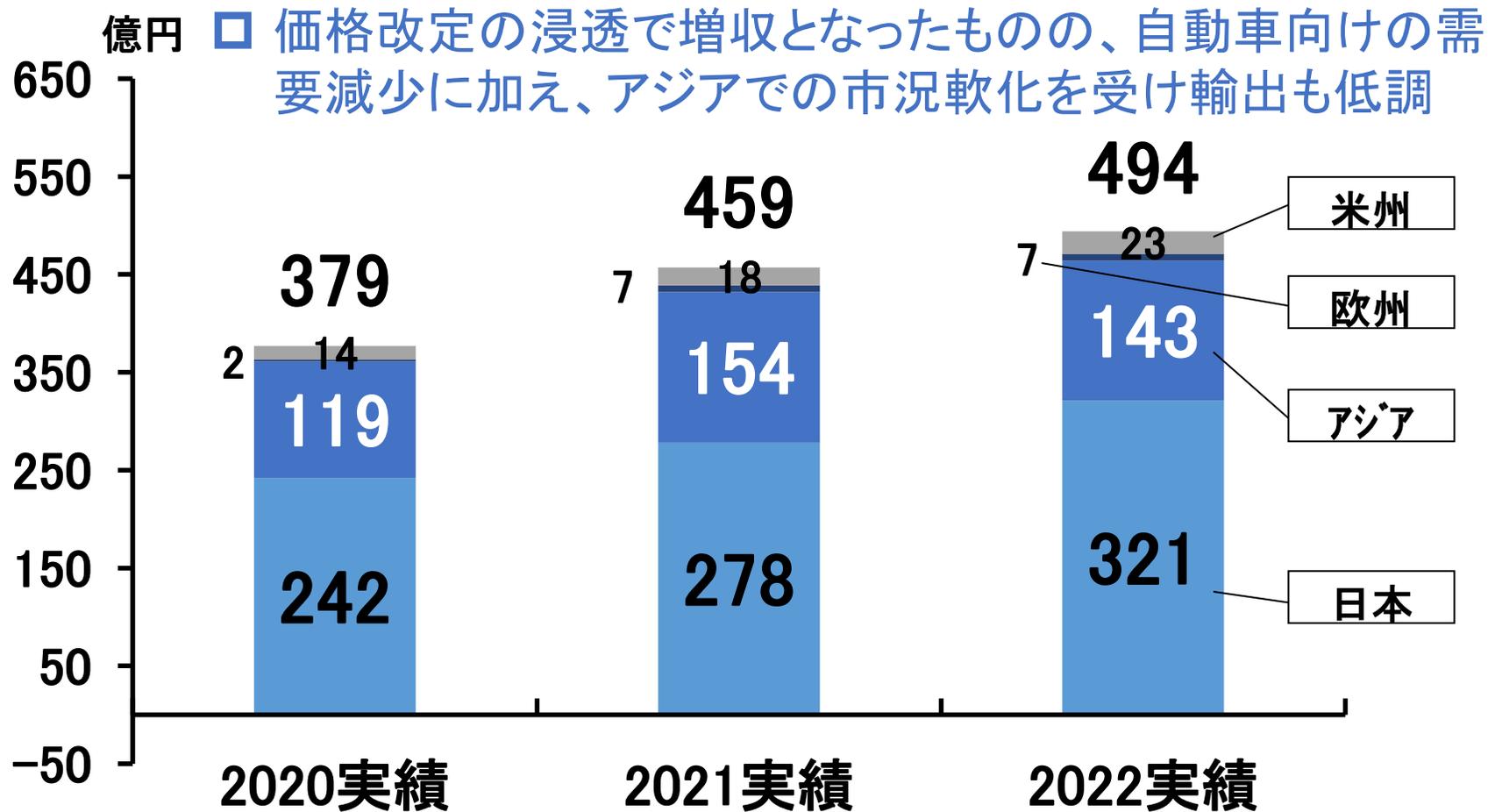
- 主力農薬の販売が、米州を中心に海外販売が好調に推移したことなどで増収増益。ブラジルでは殺菌剤の販売が大きく増加した他、北米では除草剤の販売が好調に推移。欧州では、殺菌剤や除草剤の需要が拡大し、増収。アジアでも、殺菌剤の販売が好調に推移し、国内販売も殺菌剤の販売が堅調だった。
- 動物用医薬品などのヘルスケア事業は、前期を上回る売上高となった。

(単位;億円)	2021年度 実績		2022年度 実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	598	45	644	△ 6	46	△ 52
有機化学事業	482	66	637	90	154	24
その他	27	3	29	2	2	△ 1
合計	1,109	115	1,312	86	202	△ 29

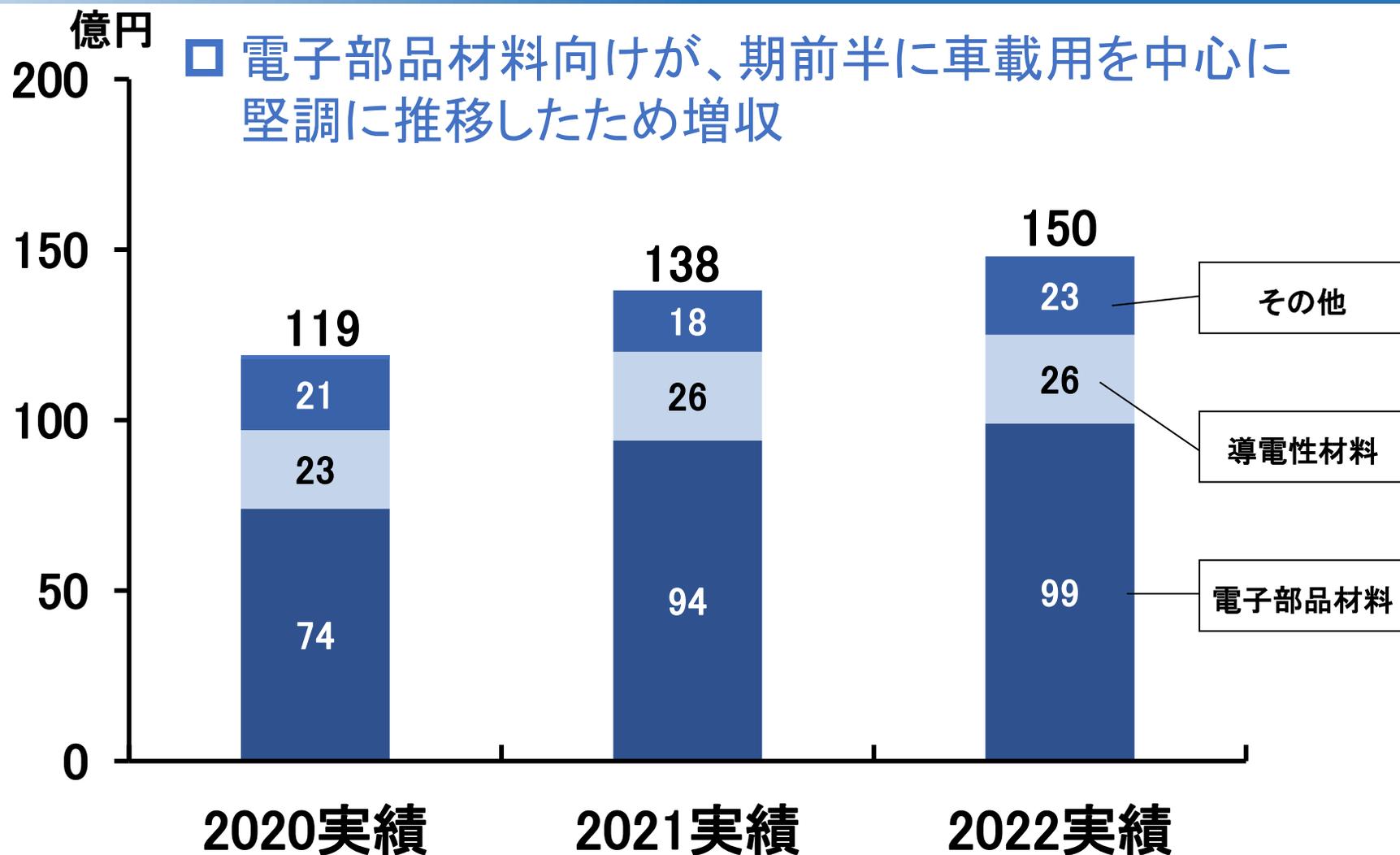
無機化学事業 営業利益増減要因



酸化チタン 地域別販売実績

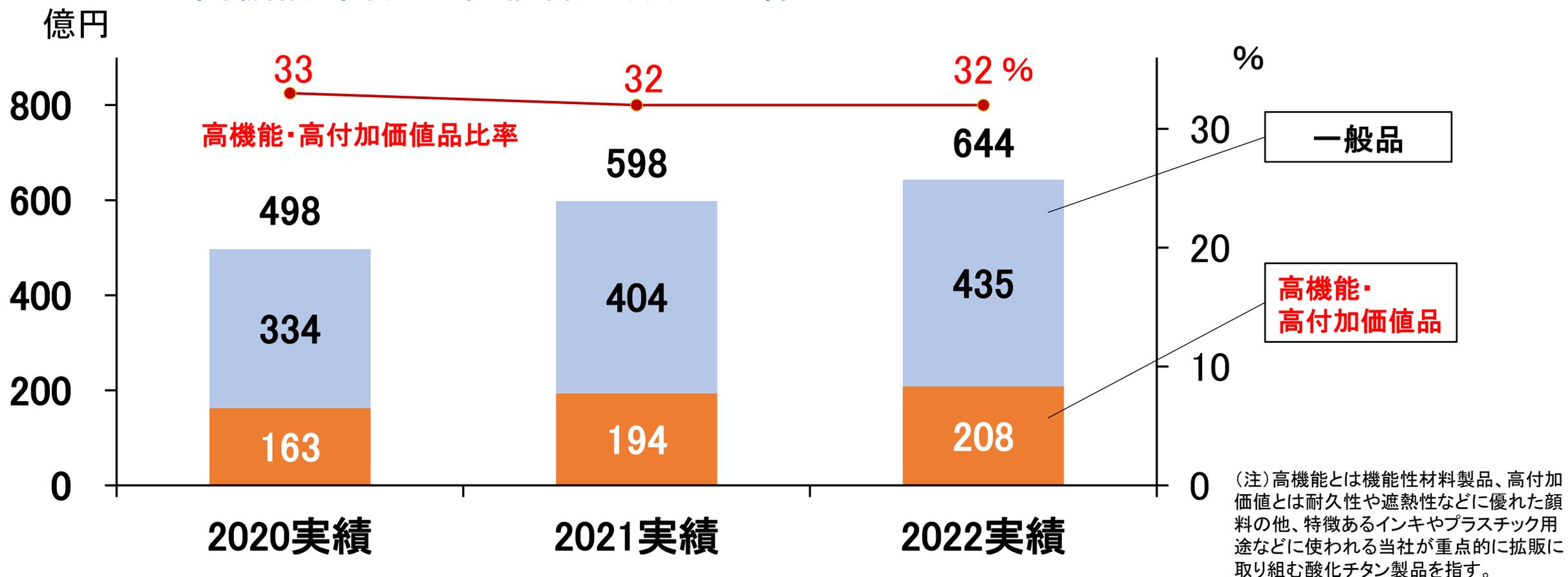


機能性材料 材料別販売実績



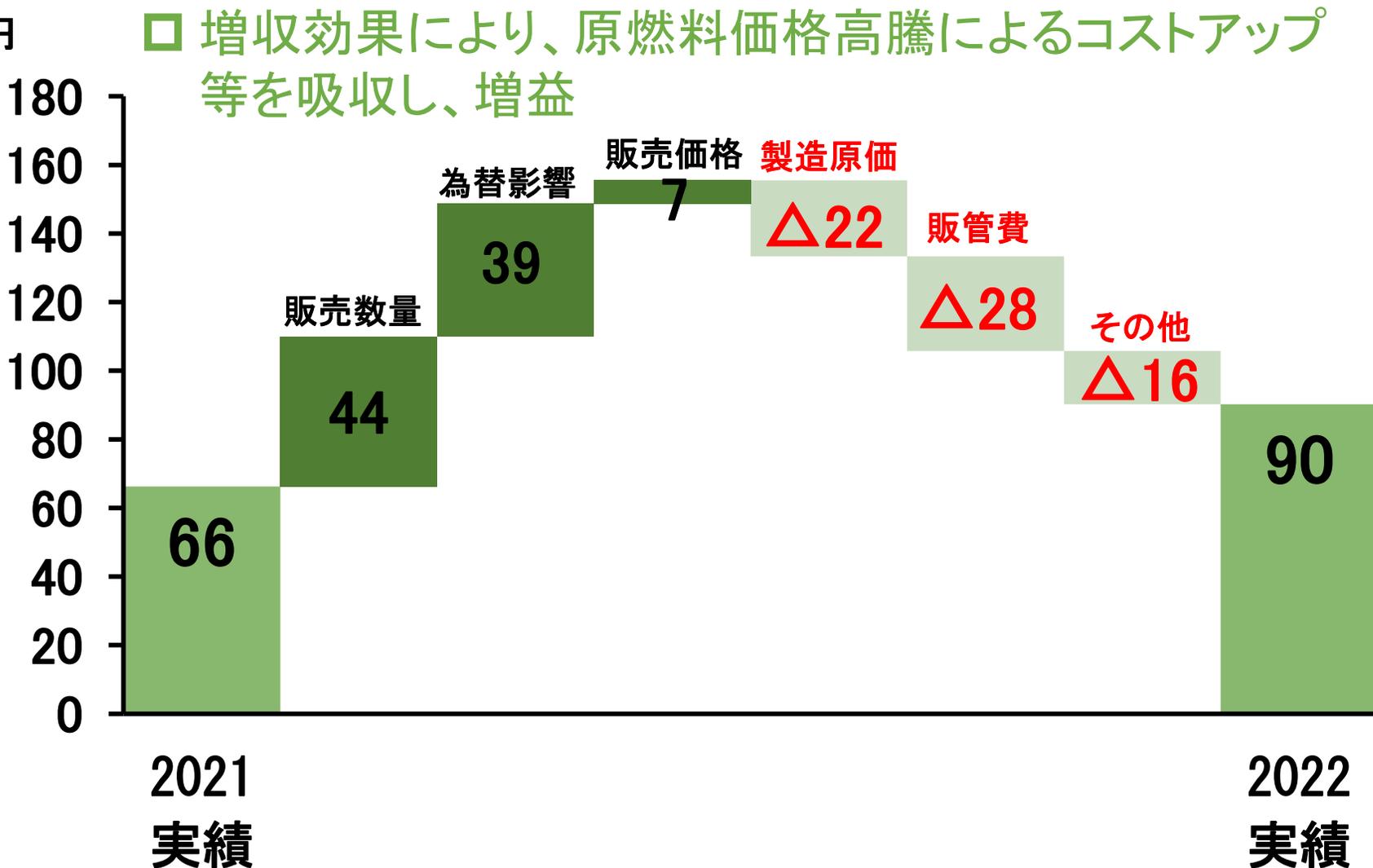
無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

□ 高機能・高付加価値品の販売は増加

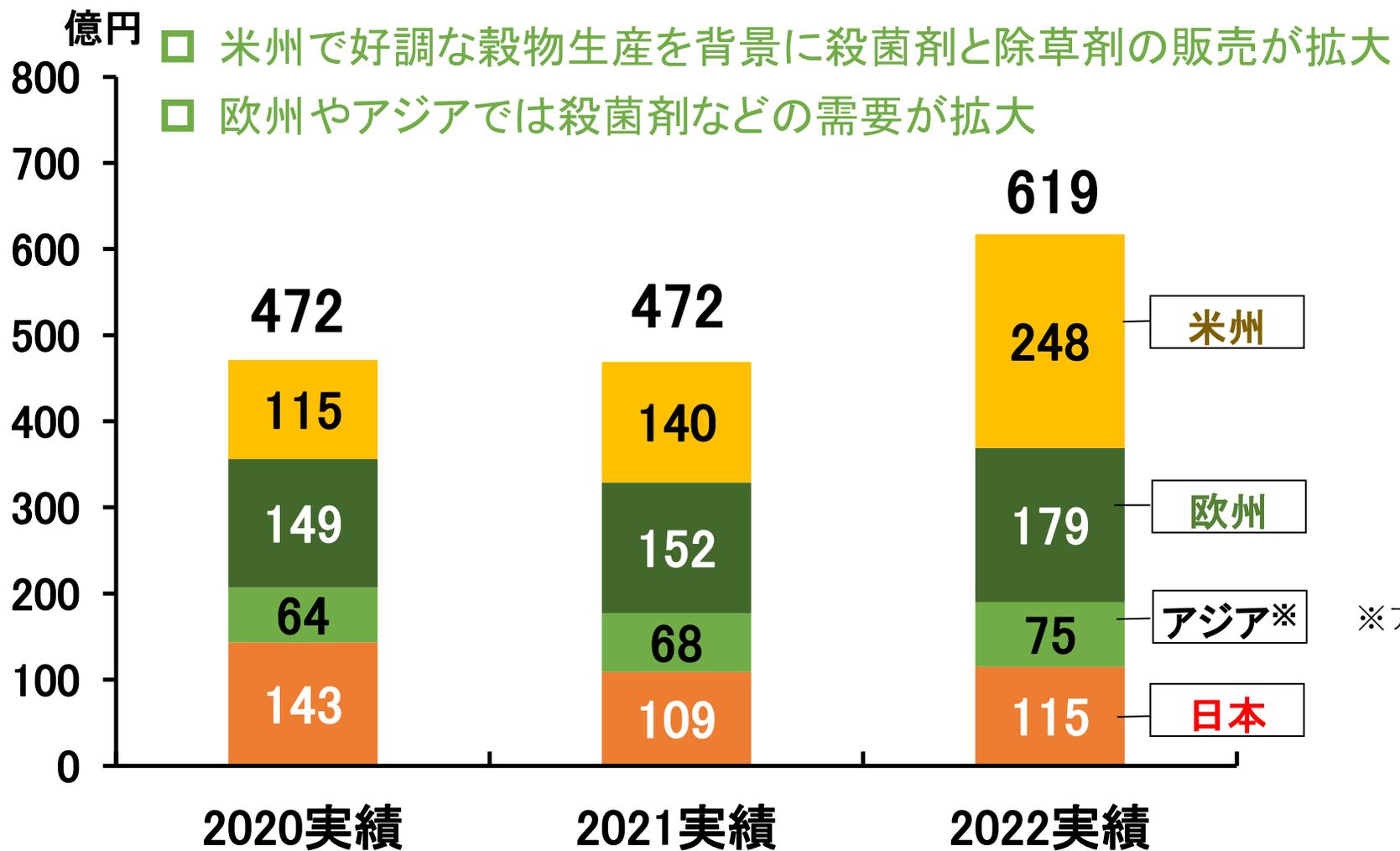


有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

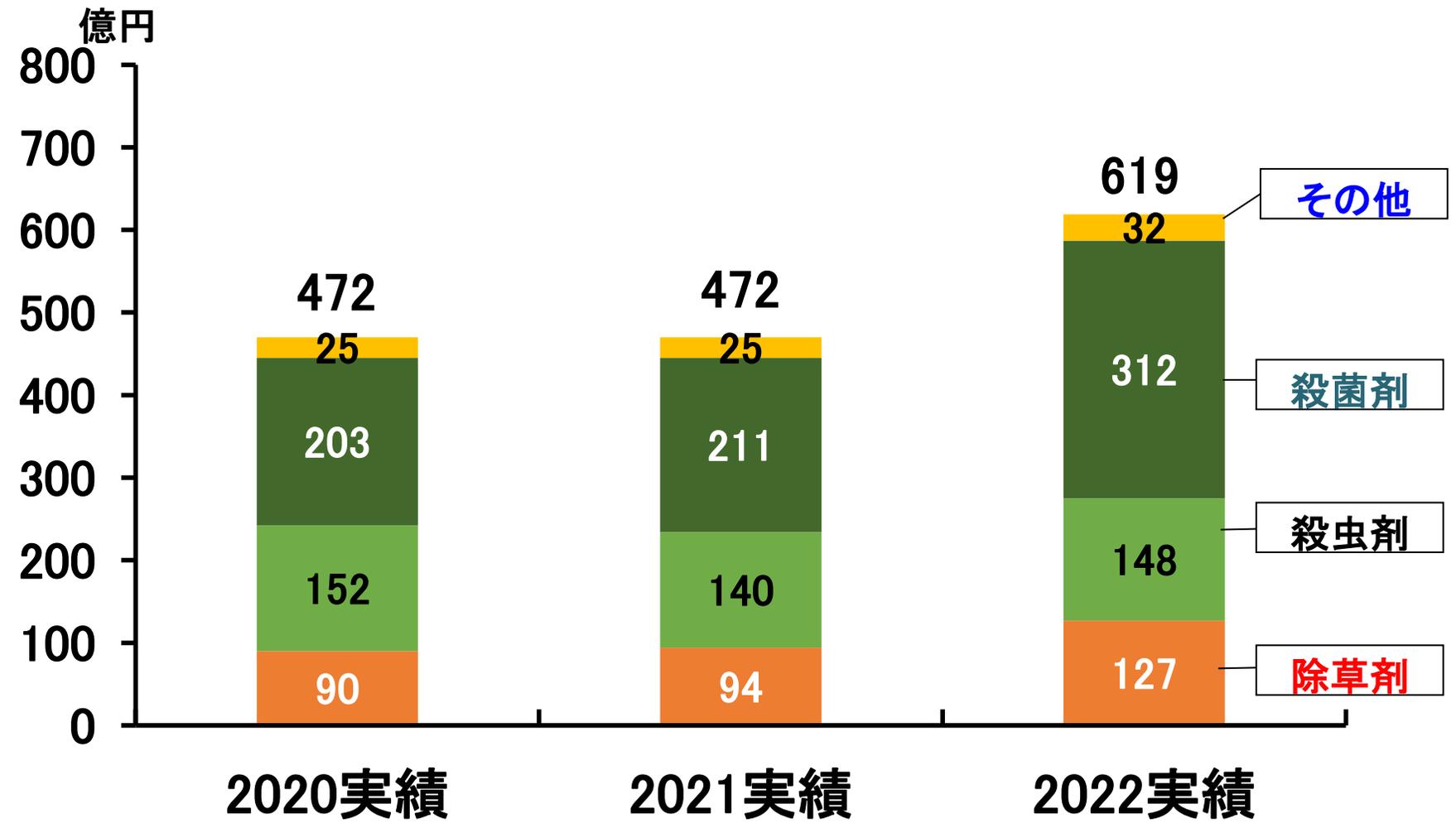


農薬 地域別販売実績

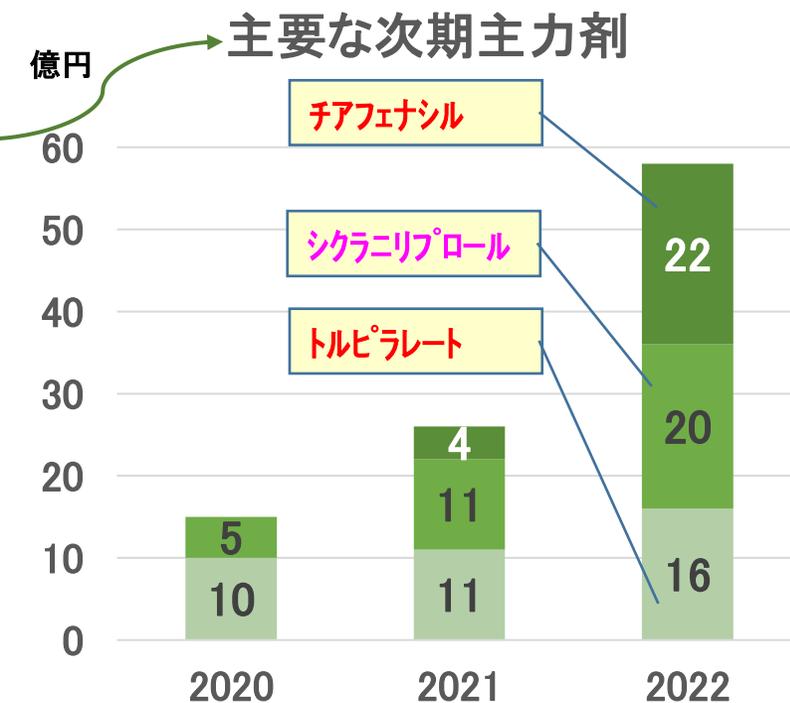
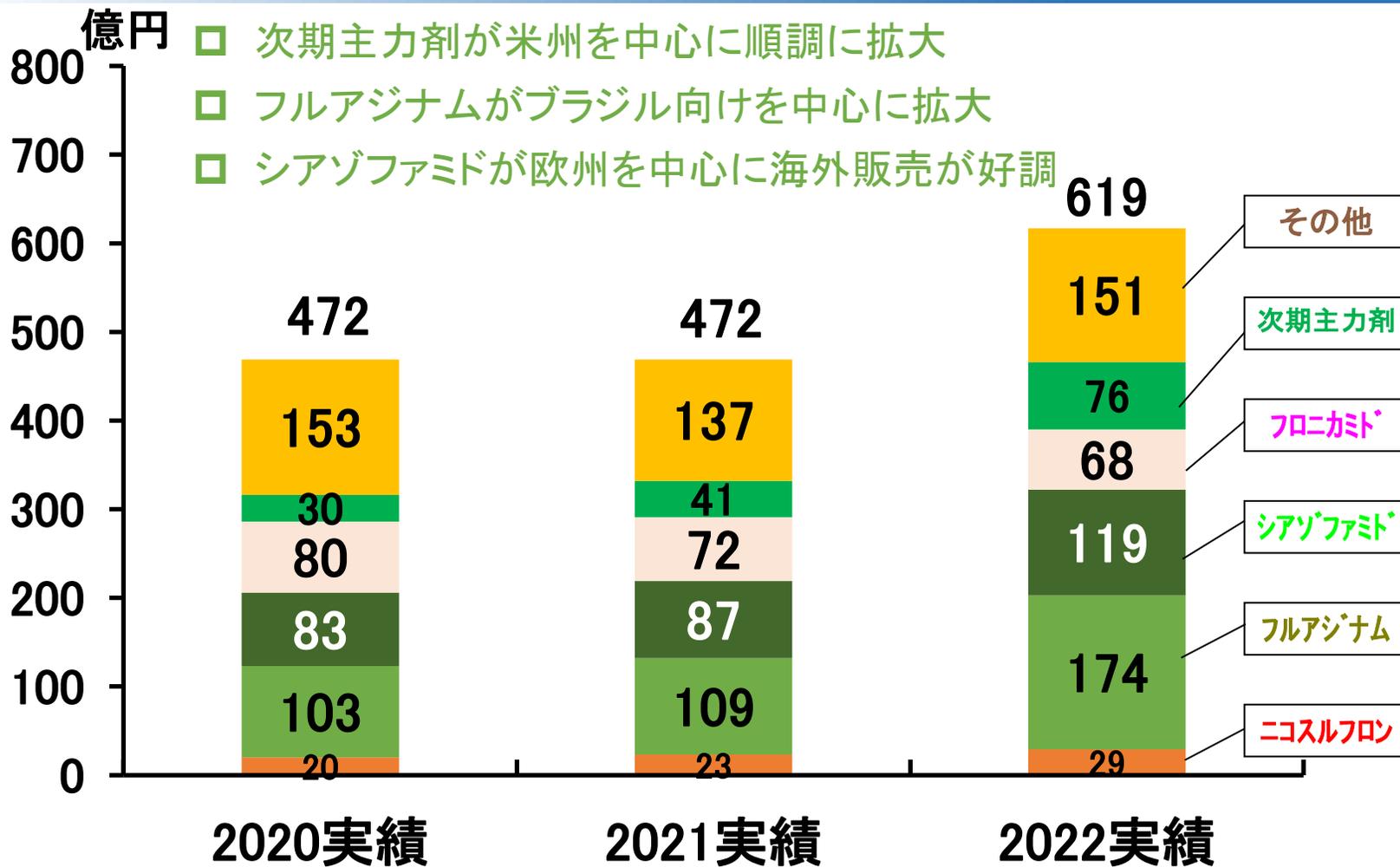


※アジアには、大洋州を含む。

農薬 用途別販売実績



農薬 剤別販売実績



営業外損益・特別損益

<営業外損益>

- 為替が円安基調で推移し為替差益を計上

科目 (億円)		2021年度 実績	2022年度 実績	増減
営業外	金融収支	△ 3	△ 2	1
	為替差損益	15	14	△ 1
	持分法利益	5	6	1
	その他	△ 0	△ 1	△ 0
計		17	17	0

<特別損益>

- 前期は持分法適用関連会社の株式交換にともなう持分変動利益を計上
- 前期は投資有価証券の減損処理を実施

科目 (億円)		2021年度 実績	2022年度 実績	増減
特別損益	固定資産処分損	△ 9	△ 8	1
	減損損失	△ 1	△ 0	0
	債務免除益	5	-	△ 5
	持分変動利益	※1 27	-	△ 27
	投資有価証券評価損	※2 △ 23	-	23
	その他	0	0	0
計		△ 1	△ 8	△ 6

※1) 持分変動利益…株式交換により当社の持分法適用関連会社がBelchim Crop Protection N.V.から三井物産(株)欧州子会社Certis Europe B.V.になりました。

※2) 投資有価証券評価損…当社の保有する農薬販売会社の投資有価証券の減損処理を行いました。

2022年度末 貸借対照表

- 当期末総資産は、前期末比+161億円の2,019億円。現預金が△94億円、棚卸資産が+172億円、売掛債権が+62億円などによる
- 有利子負債は前期末比+56億円の560億円、買掛債務は+63億円の240億円
- 純資産は、利益剰余金が前期末比+55億円などにより+55億円の974億円

科目 (億円)	2022年 3月末	2023年 3月末	増減
流動資産	1,213	1,374	161
現預金	270	176	△ 94
売掛債権	337	399	62
棚卸資産	574	747	172
その他	30	51	20
固定資産	643	644	0
有形固定資産	465	467	1
無形固定資産	10	13	3
投資その他資産	168	162	△ 5
資産合計	1,857	2,019	161

科目 (億円)	2022年 3月末	2023年 3月末	増減
負債	938	1,044	105
買掛債務	177	240	63
有利子負債	504	560	56
引当金	29	23	△ 5
退職給付に係る負債	130	121	△ 8
その他	97	98	1
純資産	918	974	55
株主資本	919	954	35
その他包括利益累計額	△ 0	19	20
負債・純資産合計	1,857	2,019	161

2022年度 キャッシュフロー計算書

- 営業キャッシュフローが前期比
△225億円の収入減などにより
F.C.F.は△110億円

(単位;億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	増減
営業キャッシュフロー	165	△ 60	△ 225
税金等調整前当期純利益	130	94	△ 35
減価償却費及びその他償却費	46	53	6
運転資金等	△ 2	△ 188	△ 185
法人税等支払額	△ 9	△ 20	△ 10
投資キャッシュフロー	△ 43	△ 50	△ 7
固定資産の取得・売却	△ 44	△ 45	△ 1
投資有価証券の取得	△ 0	△ 0	△ 0
投融資資金等	1	△ 4	△ 5
財務キャッシュフロー	△ 116	10	126
借入金・社債増減等	△ 108	44	153
自己株式純増減額	△ 0	△ 20	△ 20
配当金支払額	△ 7	△ 14	△ 7
現金及び現金同等物に係る換算額	5	5	0
現金及び現金同等物の増減額	11	△ 94	△ 105
現金及び現金同等物の期末残高	270	176	△ 94

2023年度 業績予想

為替レート	2022年度 実績	2023年度 予想
米ドル (円/US\$)	134.7	135.0
ユーロ (円/Eur)	140.7	140.0

2023年度 業績予想

- 有機化学/無機化学の両事業とも増収の見込み
- 原料価格は高価格帯で推移するものの、期後半の燃料コスト低減などにより、無機化学は増益の見通し

(単位; 億円)	2022年度 実績	2023年度 予想	増減
売上高	1,312	1,470	157
営業利益	86	110	23
経常利益	103	105	1
純利益	69	75	5

2023年度 業績予想 (事業別売上高・営業利益)

- 無機化学事業は、期後半の燃料コスト低減などにより増益の見通し
- 有機化学事業は、需要は堅調である一方で、原料高によるコスト高の継続や経費の増加などで、利益は横ばいの見通し

(単位;億円)	2022年度 実績		2023年度 予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	644	△ 6	775	18	130	24
有機化学事業	637	90	667	90	29	0
その他	29	2	28	2	△ 2	△ 0
合計	1,312	86	1,470	110	157	23

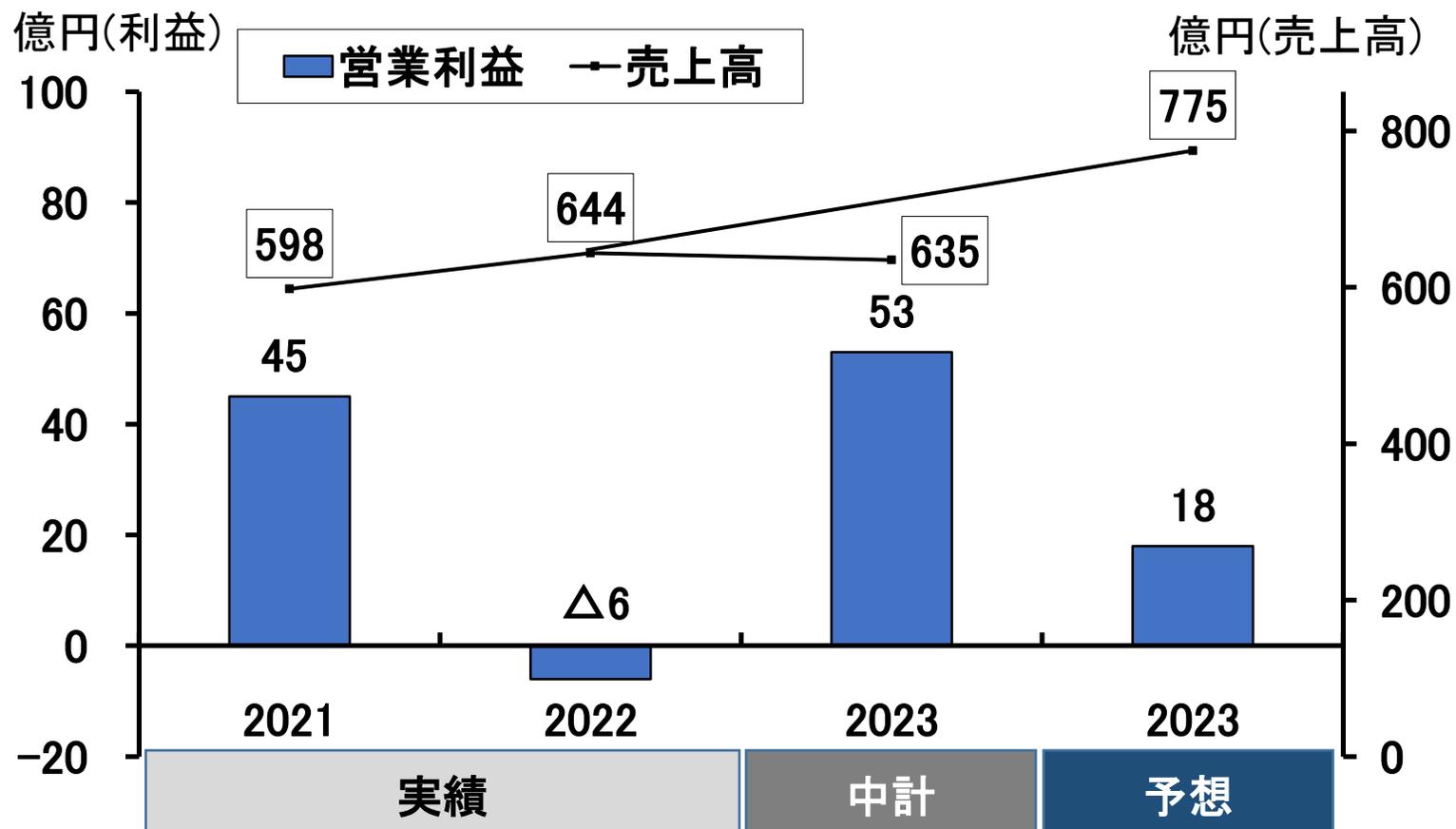
経営指標

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想
1株当り当期純利益(円)	292.5	175.7	196.6
自己資本利益率(ROE)	13.6%	7.3%	7.5%
総資産営業利益率(ROA)	6.3%	4.5%	5.2%
売上高営業利益率	10.4%	6.6%	7.5%
自己資本比率	49.5%	48.3%	47.1%
借入金依存度	27.1%	27.8%	29.6%

事業別 業績概要

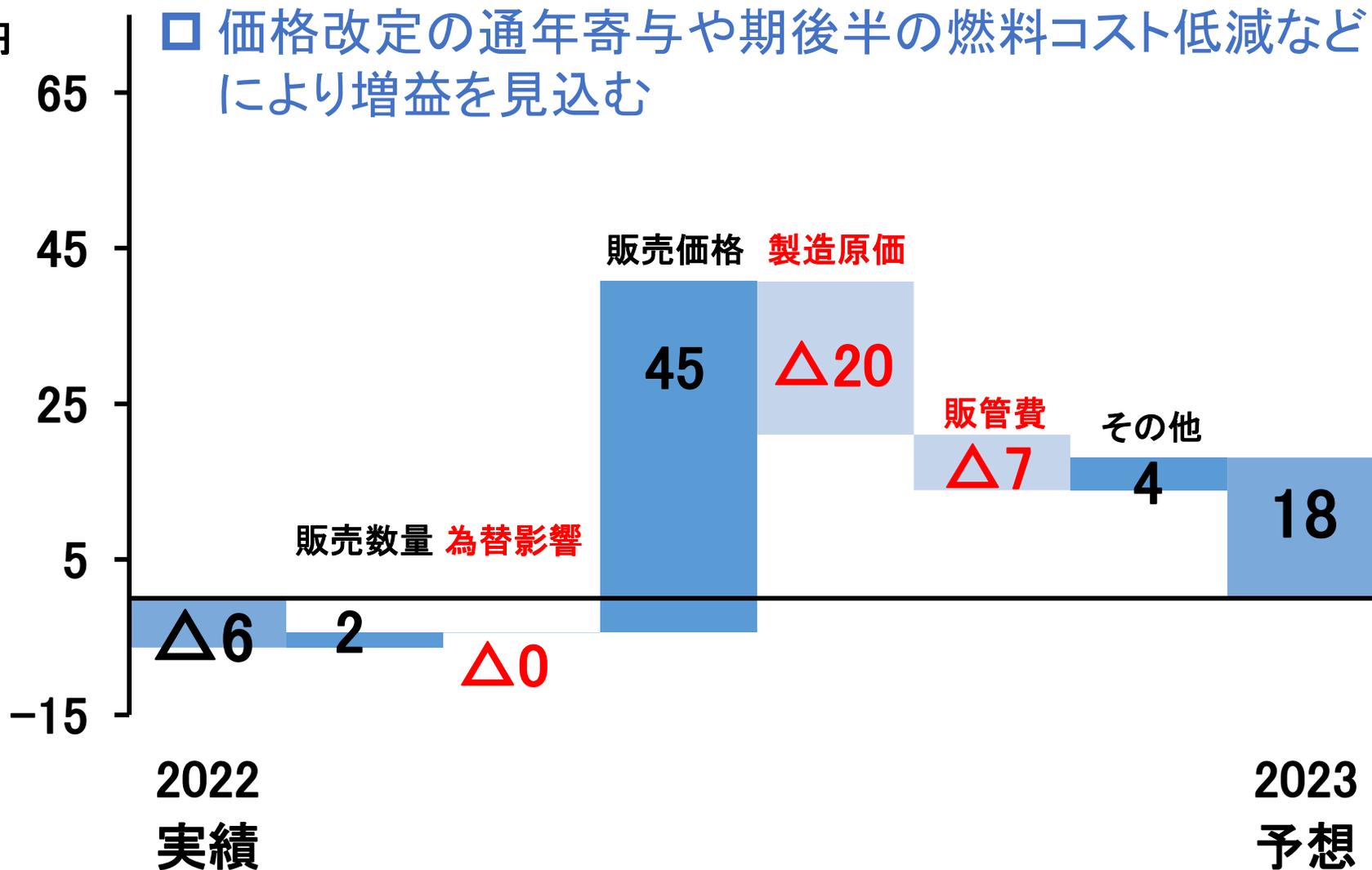
無機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し> □ 原料価格は高価格帯で推移するものの、価格改定の通年寄与と燃料コスト低減などにより、増収増益の見通し

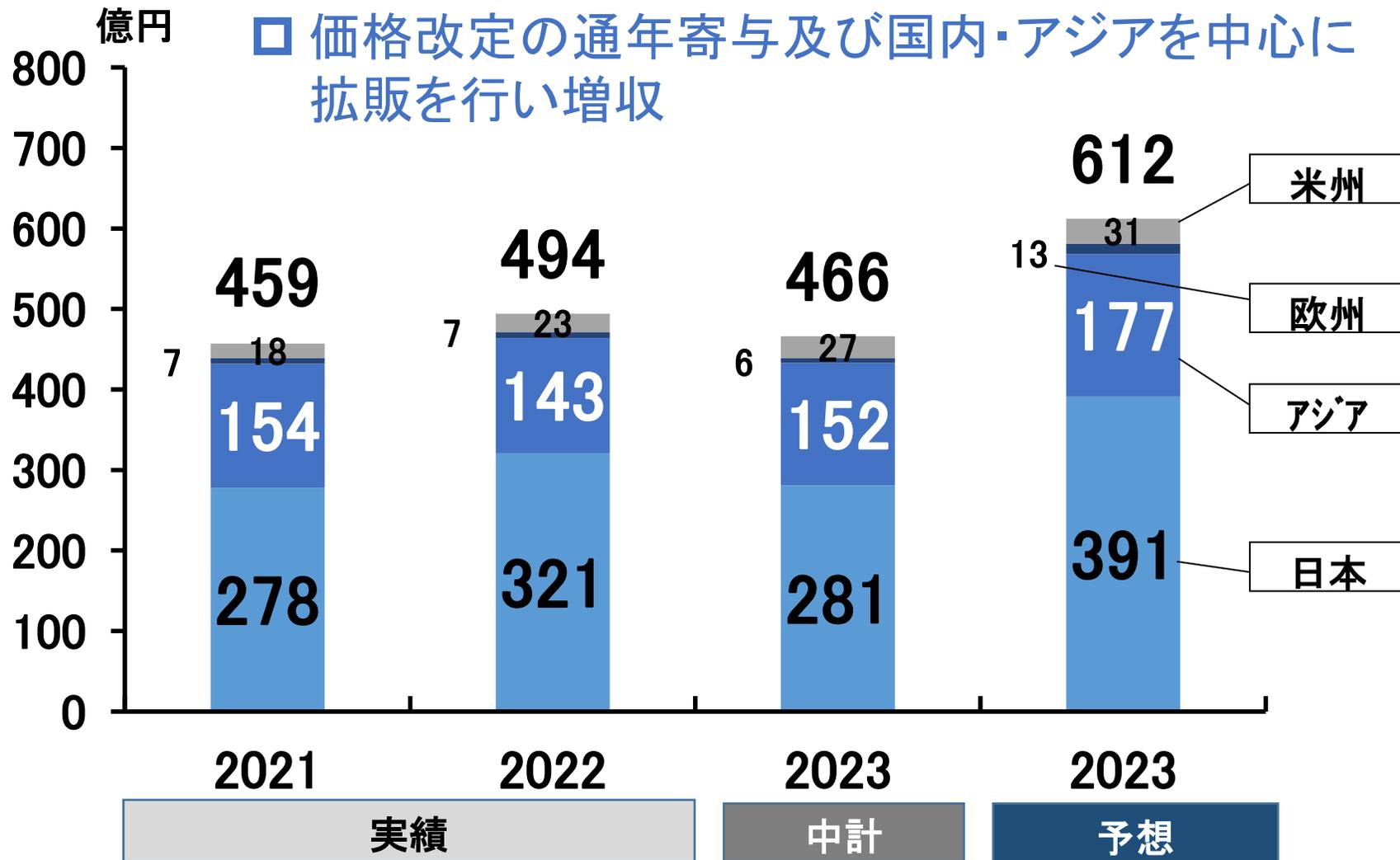


無機化学事業 営業利益増減要因

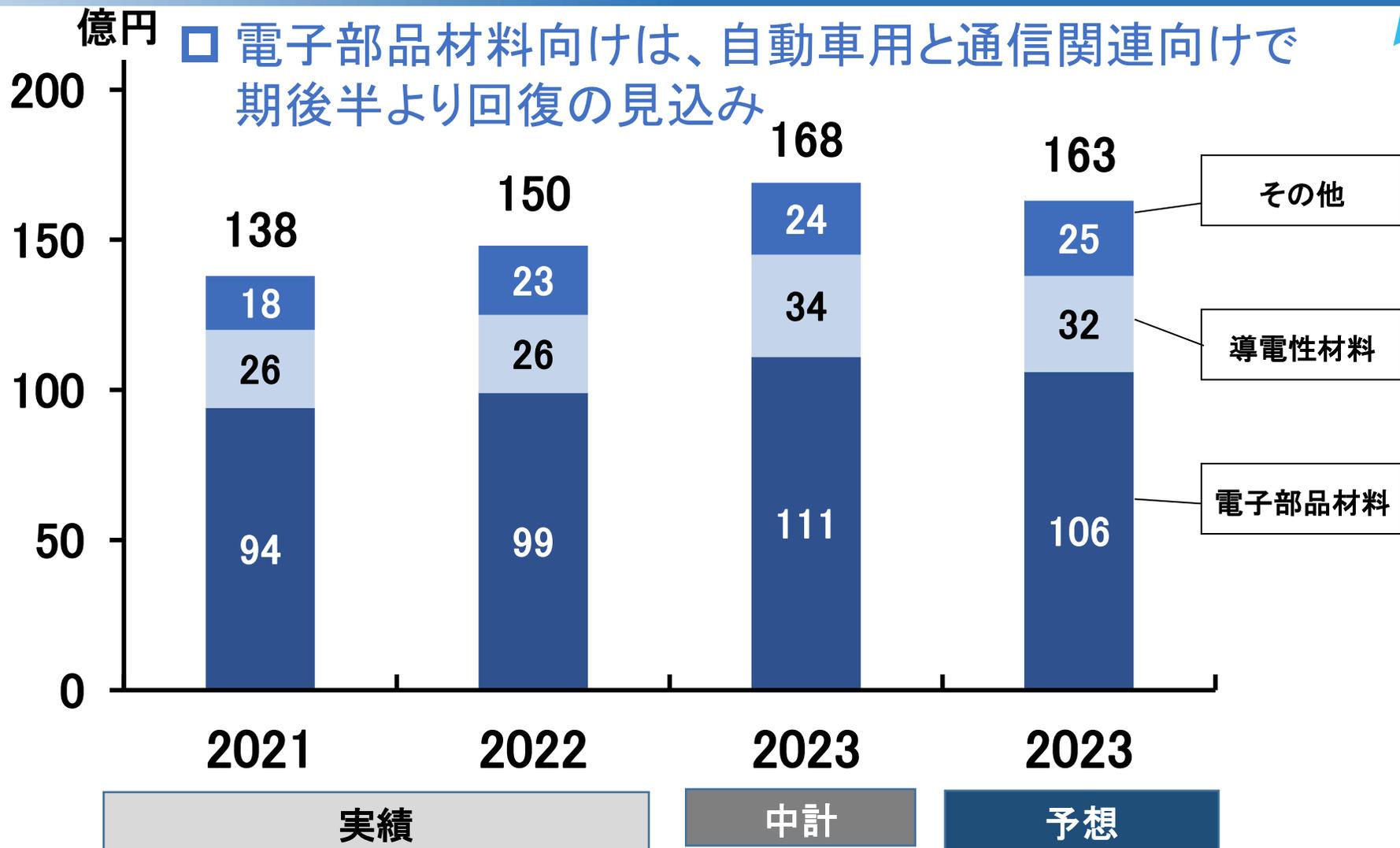
営業利益 億円



酸化チタン 地域別販売計画

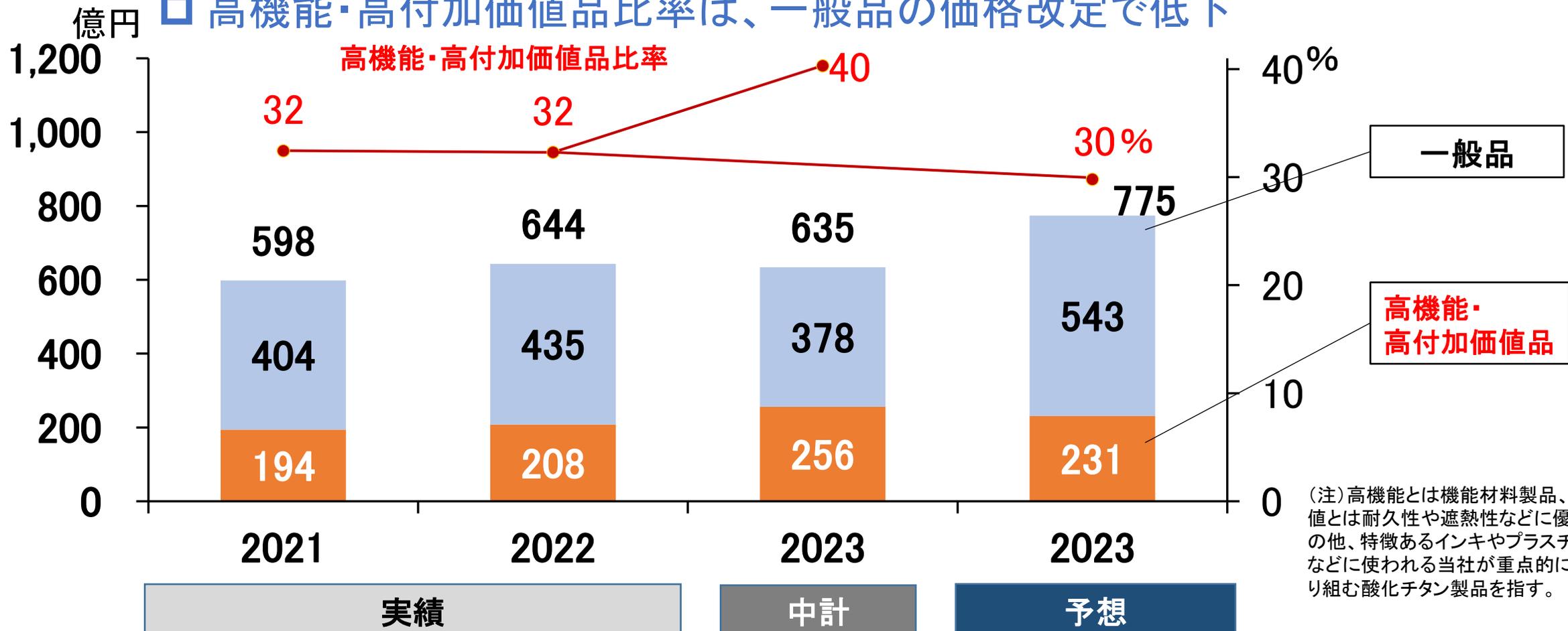


機能性材料 材料別販売計画



無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

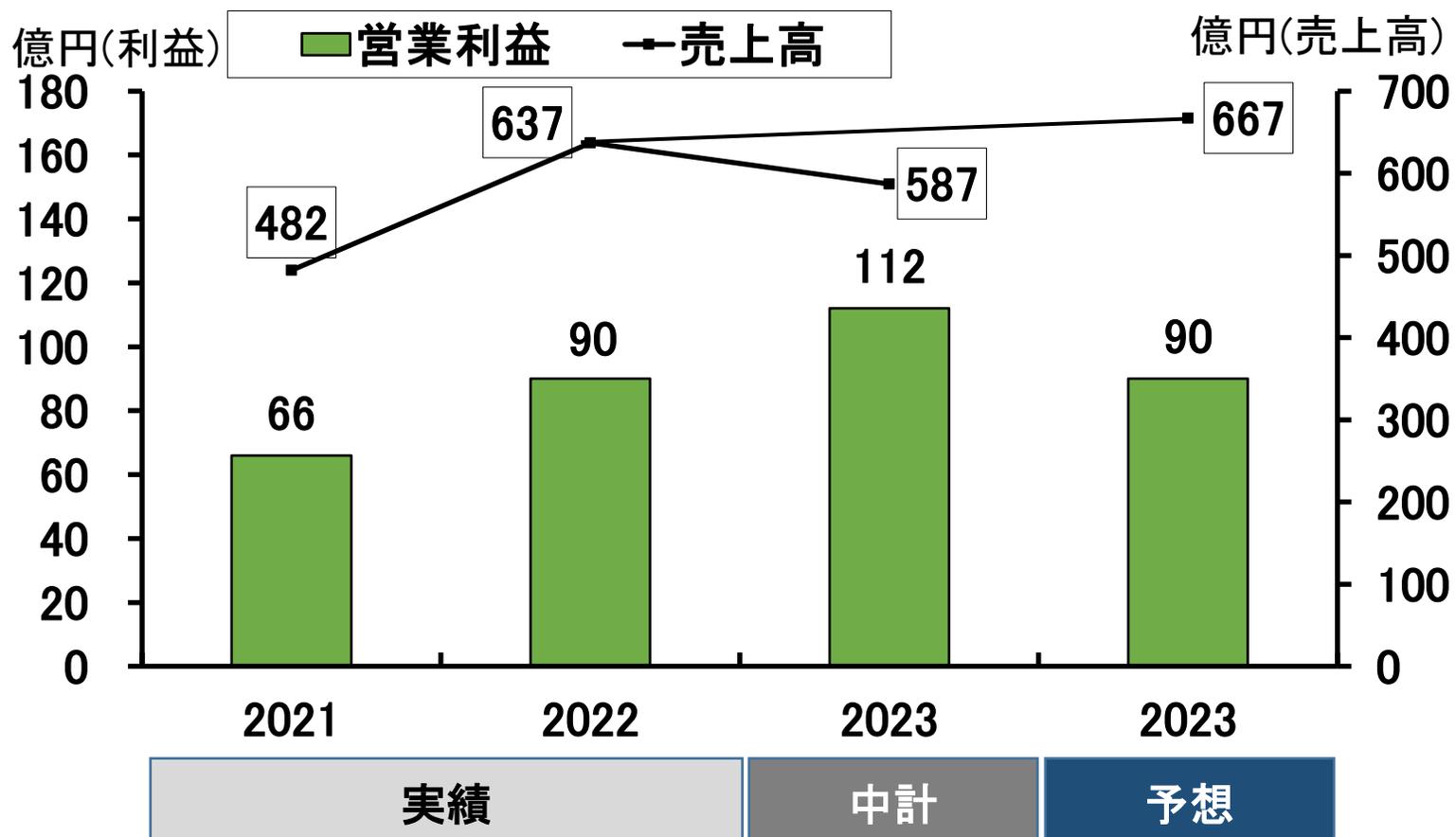
- 高機能・高付加価値品は販売を伸ばす
- 高機能・高付加価値品比率は、一般品の価格改定で低下



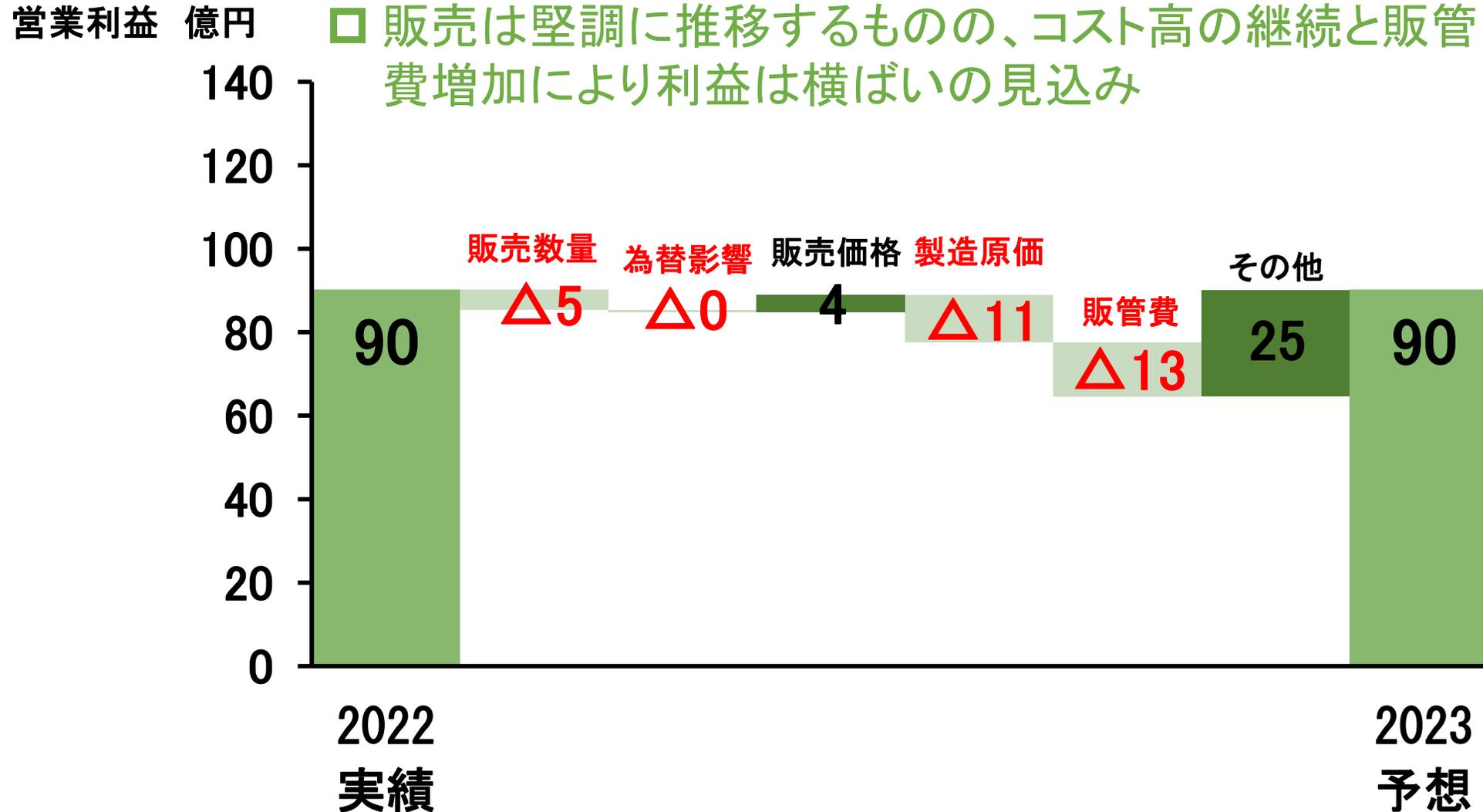
有機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し>

- 需要は、引き続き欧米を中心に堅調
- 原料価格が高価格帯で推移し、利益を圧迫



有機化学事業 営業利益増減要因

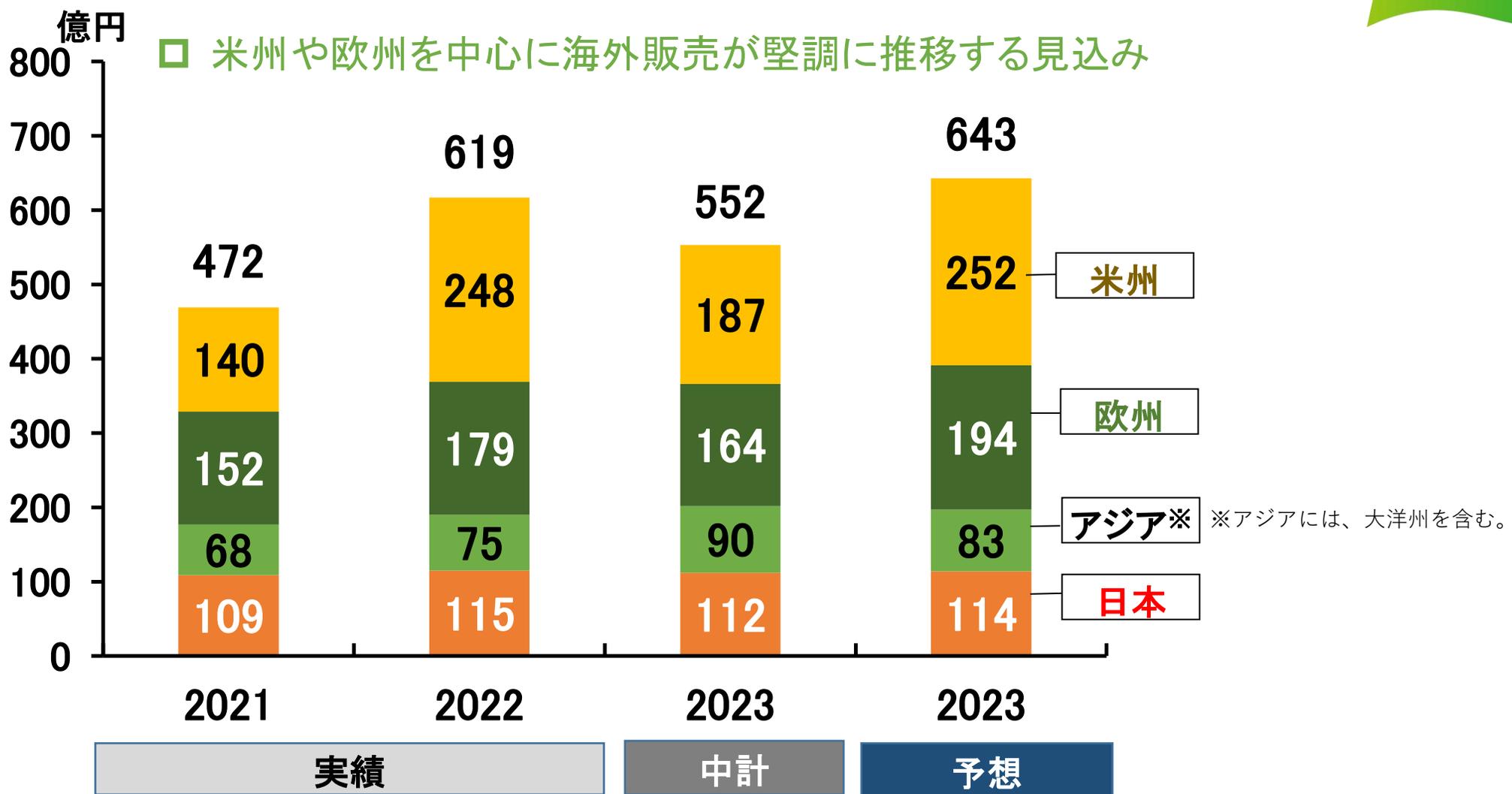


農薬 地域別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業

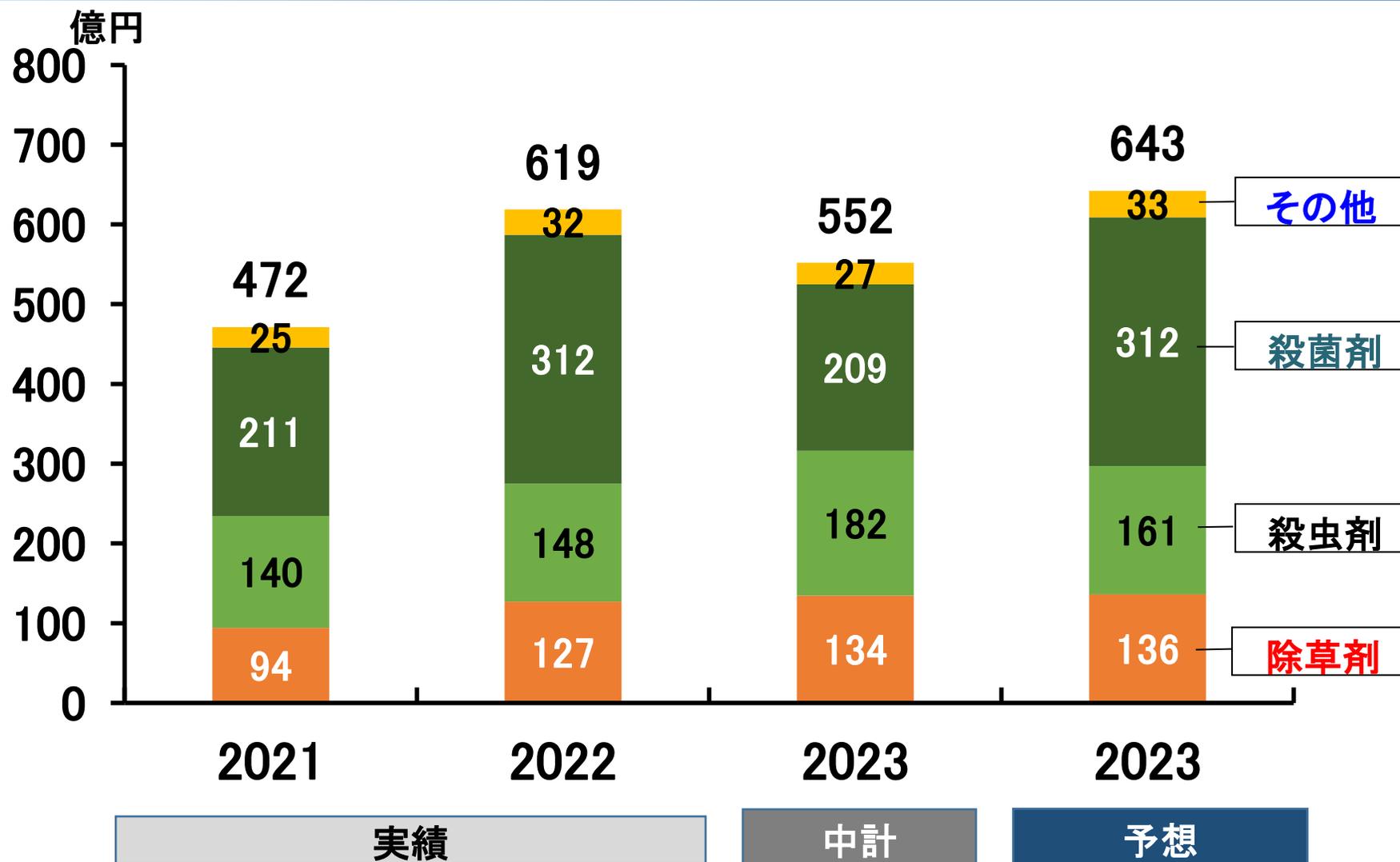


農薬 用途別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業

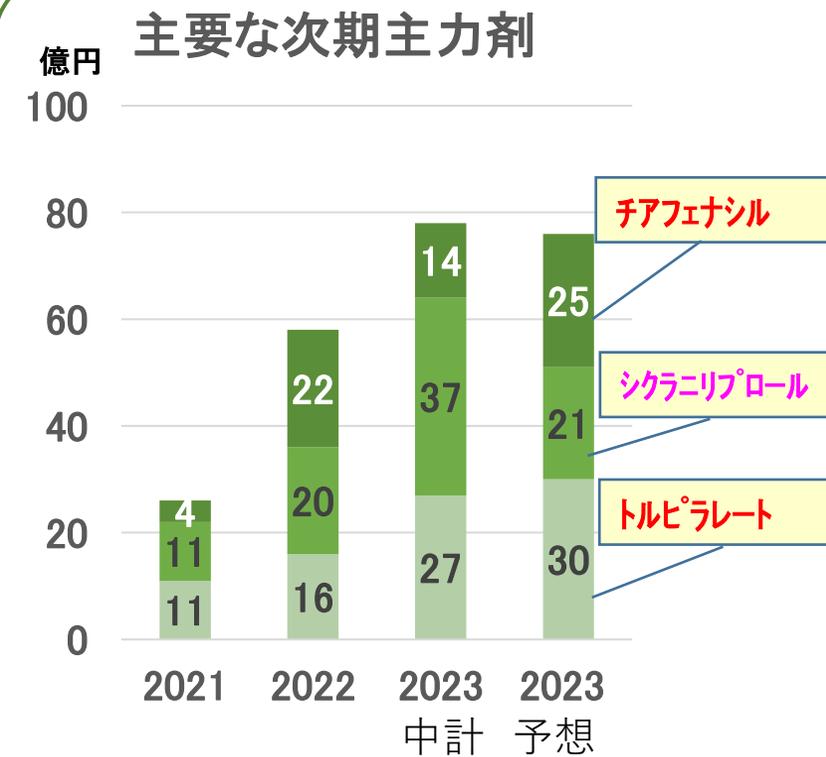
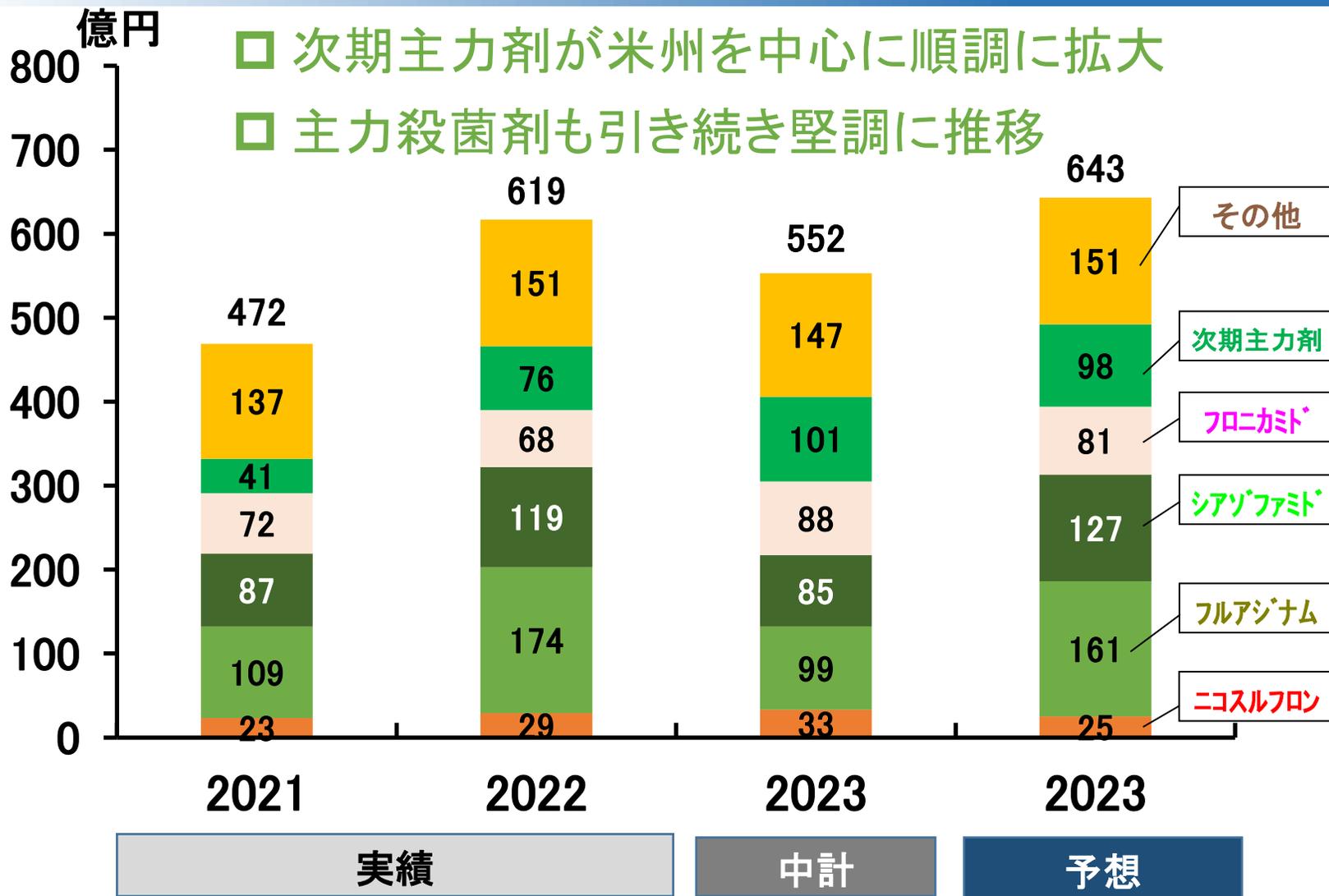


農薬 剤別販売計画

Vision
2030

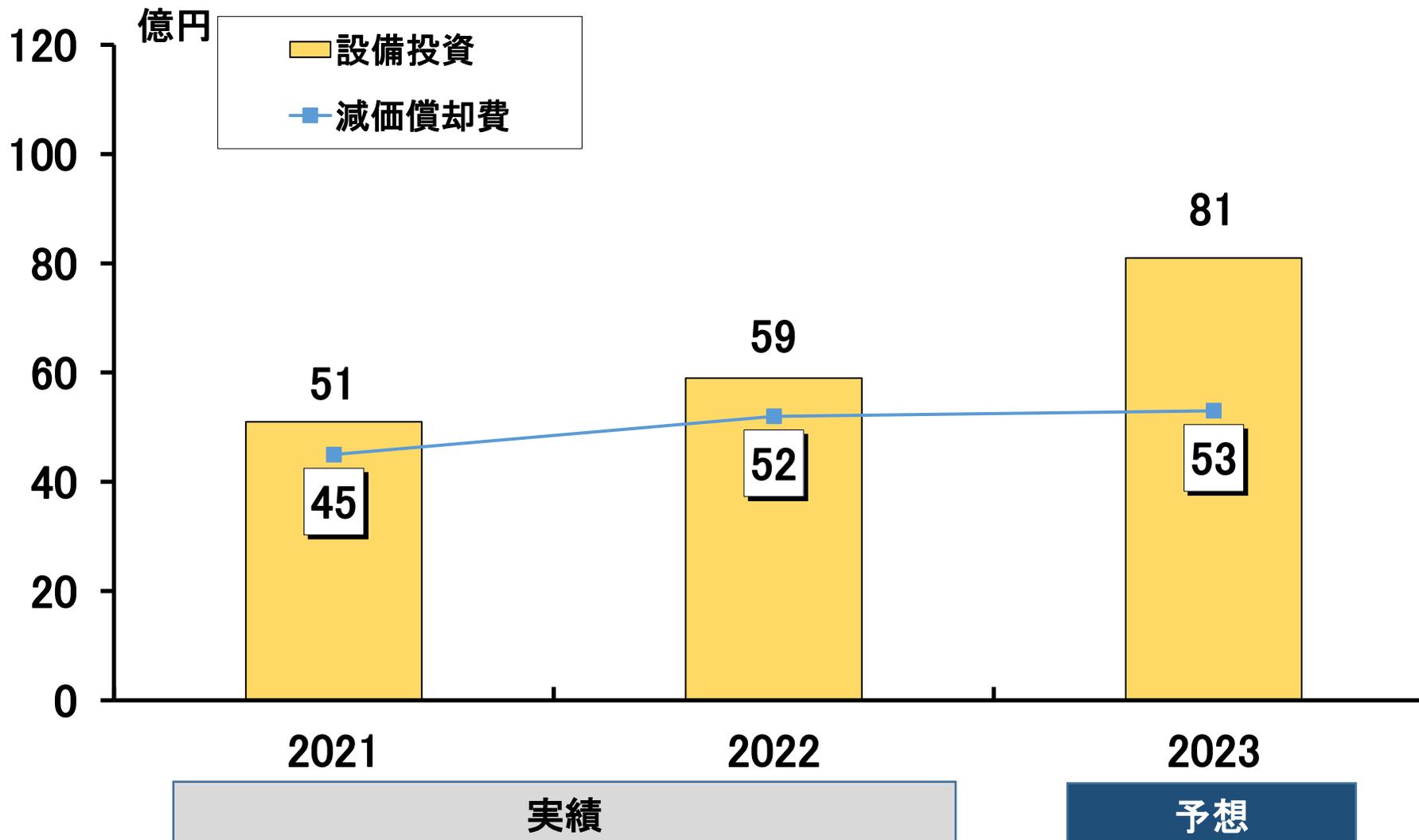
「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業

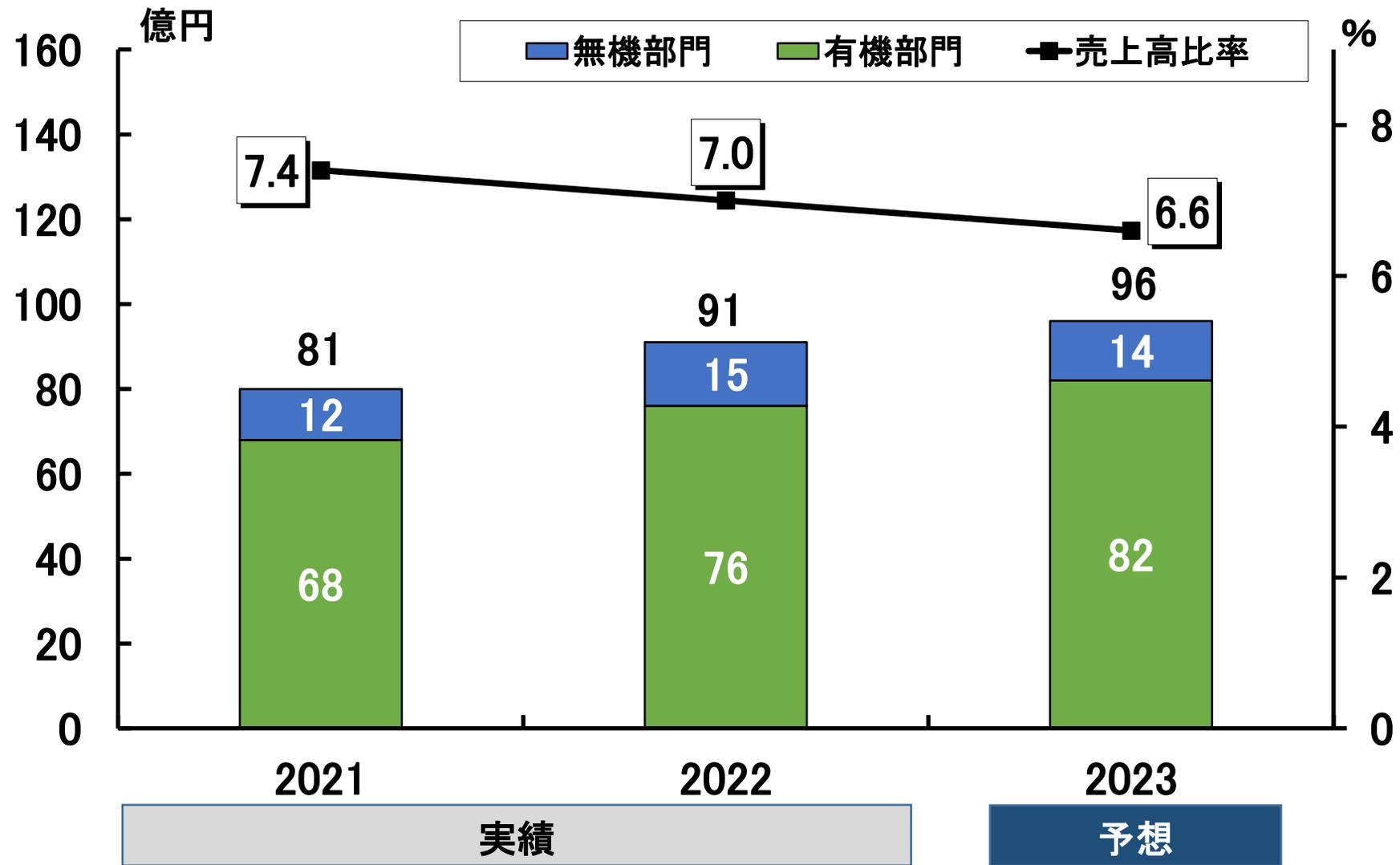


付属資料

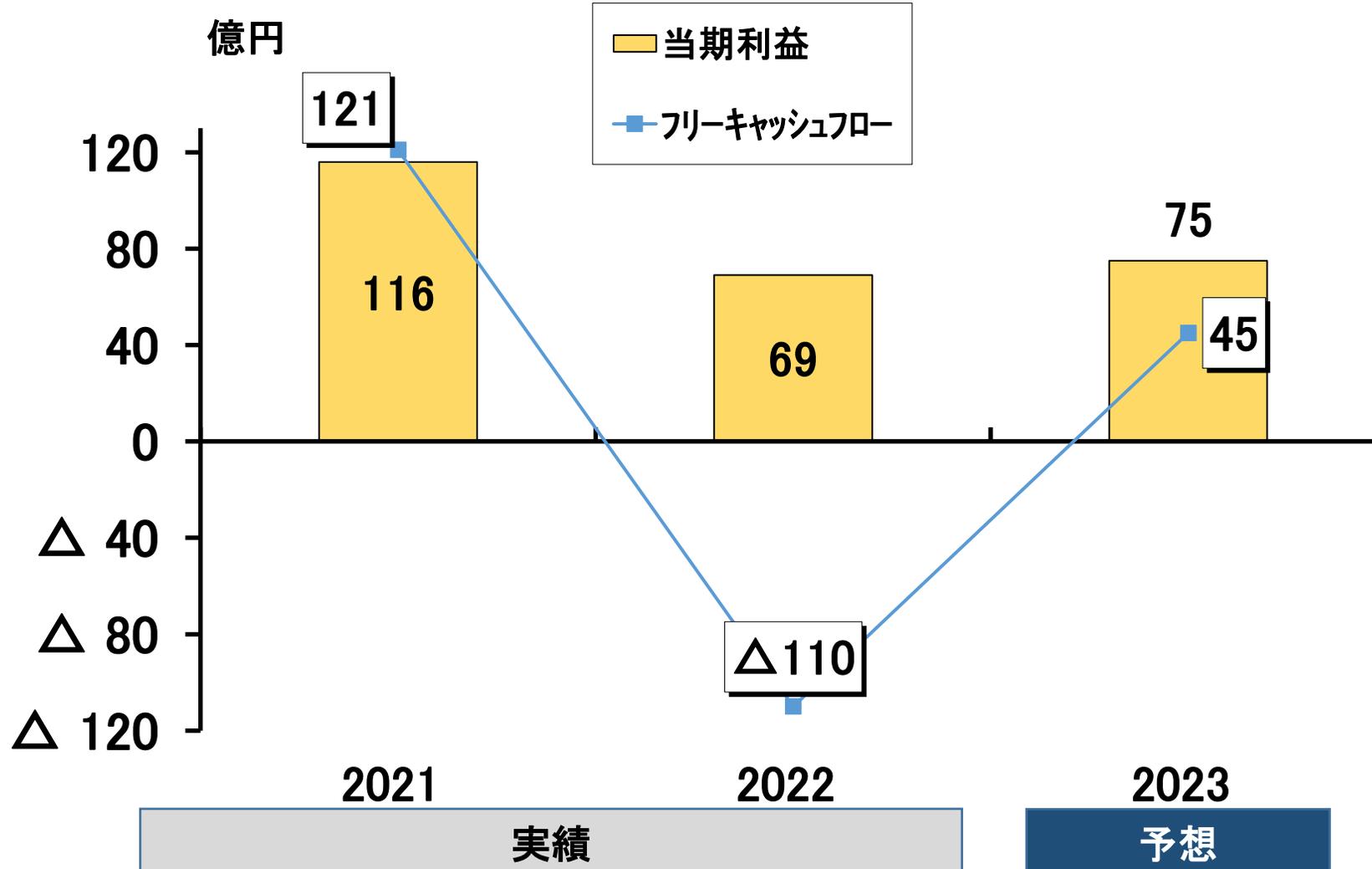
設備投資・減価償却費



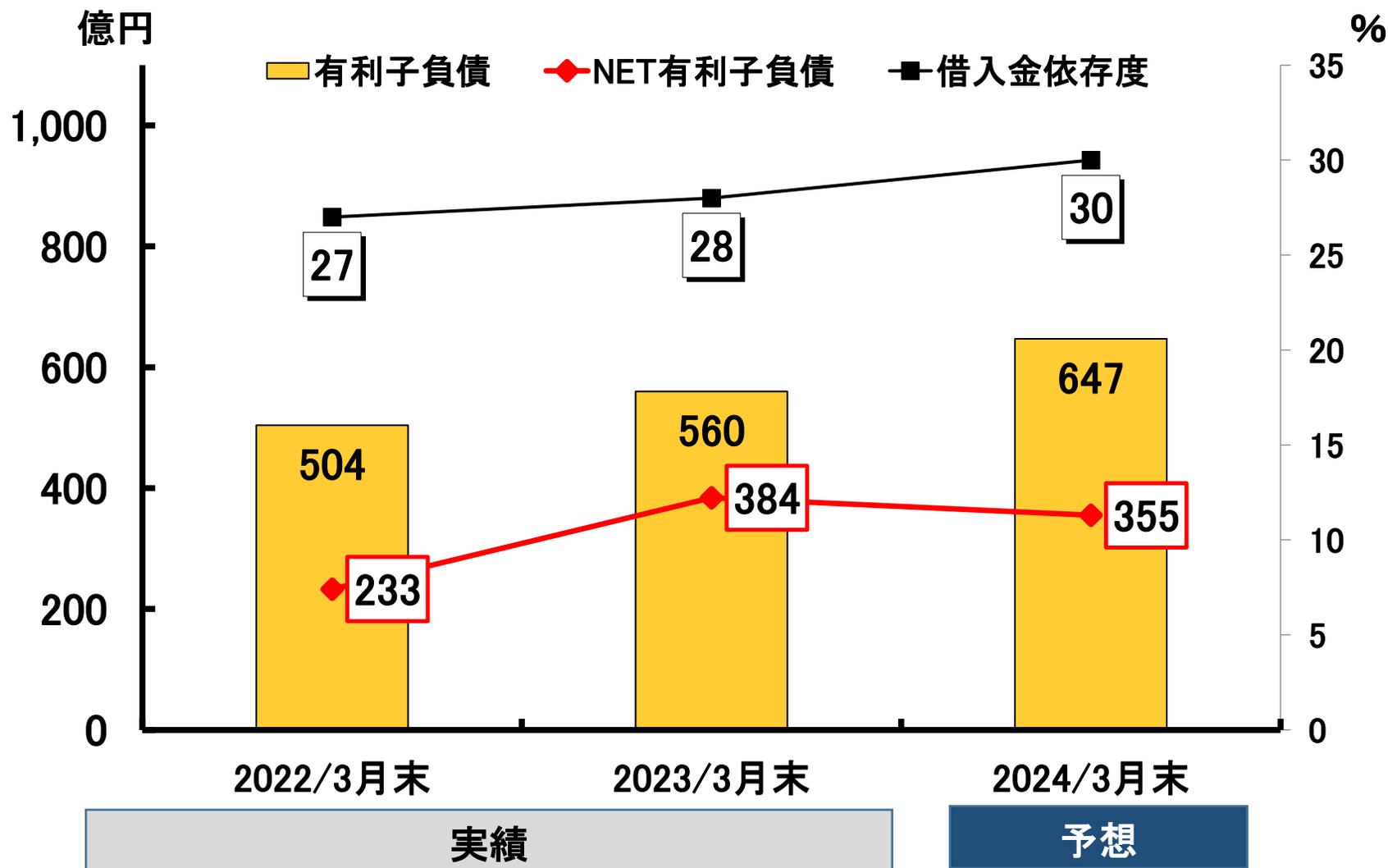
研究開発費



フリーキャッシュフロー



有利子負債残高



将来に関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料に含まれる将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき予想または予測し記載しているものであり、様々なリスクや不確定な要因を含んでおります。従って、実際の業績等は、ここに記載する将来に関する記述とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



青色コチョウラン「Blue Gene」を発売

2022年6月に青色コチョウラン「Blue Gene(ブルージーン)」を発売しました。青色色素を持たないコチョウランにツユクサの青色遺伝子を導入し、17年もの長い期間をかけて開発商品化に成功しました。着色した花の色とは異なる植物が生まれ持つ気高い青色を、自然の風合いとともに長く、開花する花ごとに楽しめます。「Blue Gene」の花言葉は“奇跡のめぐり逢い”。その色褪せない価値を持つ特別な贈りものとして様々な場面でご愛顧いただき、生活の豊かさに貢献していきます。また同年12月には、鉢物部門でその年の最も優れた品種に与えられる「フラワー・オブ・ザ・イヤー2022(最優秀賞)」に選出されました。